

1. プログラム名称
沖縄県立宮古病院 総合診療専門研修プログラム「うぷらうさぎ」
2. 専攻医定員
5名（プログラム申請書 A の別紙 5 参照）
3. プログラムの期間
（ 3 ）年間
4. 概要
A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長 総合病院 277 床（高度急性期病床 17、一般病床 190、精神科病床 45、回復期病床 25）である宮古病院は救急医療を始め、結核・感染症、災害拠点、専門医療の提供、精神医療さらには周産期医療など地域支援病院としての役割を担い、離島宮古群島における医療の中心的役割を担っている。地区医師会や歯科医師会、それに薬剤師会、さらには個人開業医による訪問診療医師、私立病院、福祉保健所、行政、介護福祉施設、在宅訪問看護ステーションなどと、密接に連絡を取り合い、医療・保健・福祉の役割分担を行って日々活動をしている。 宮古群島は島嶼琉球列島の中心である沖縄本島から約 300km 離れた南西に位置し四方を海に囲まれた離島である。宮古島を中心とし、伊良部島、池間島、来間島、大神島、下地島、多良間島の有人小離島で構成されたいわば離島・僻地ともいえる。そのような特殊な環境に置かれ、発生してくる離島の医療・保健・福祉の問題には離島ならではの問題が潜んでいる。 加えてこの時代に共通した問題、肥満や運動不足を起因とする生活習慣病やアルコール関連疾患など個人の健康増進と疾病予防、超高齢者時代の到来と高齢者のケア、女性特有の健康問題、リハビリテーション、メンタルヘルス、終末期のケア、幼少児・思春期のケア、救急医療など、都市群の医療や大病院での医療と重なる問題も数多く存在している。 宮古病院における総合診療専門研修プログラムでは、地域の医療の中心的役割を担う宮古病院と地域医療機関との関わりを実体験し、さらにはその中で、島の文化や言語、自然環境、それを背景に暮らしている患者と患者家族ならびに地域住民の暮らしを知り、その交わりを通し、健康の問題から始まる様々な医療問題の実情を学ぶことができる。そうして患者を「疾患」として見るだけでなく「病（やまい）」としても捉え、心理面も含めた考察、さらには文化、職場でのストレスなど暮らしや地域社会を視野に入れた医療の視点・考察・洞察を身につけることを目指す。 総合診療 I 研修施設の読谷村診療所では、人口 5 万人の家庭医として急性期、慢性期、予防・健康増進、学校保健、緩和ケアなど幅広く関わることができ総合診療的アプローチができる。また多良間島のような小離島での人々の暮らし、離島医療などを体験し、宮古病院での医療を含めた第一線の地域医療の原点を学習することができる。また愛知県知多半島保健医療圏に位置する杉田医院では、当院にて長年家庭専門医として指導されてきた、また離島医療の経験を有する医師による指導の下で、外来診療、在宅医療、地域包括ケアなどのアプローチが経験できる。さらに宮古島内 3 つの在宅療養支援診療所（ドクターゴン診療所、池村内科医院、うむやすみや・す・ん診療所）における地域第一線の診療所での外来、訪問診療などを経験・学習できる環境を整えている。

このような総合診療専門医育成環境にある沖縄県立宮古病院では平成 27 年 4 月に家庭医療センターを立ち上げた。家庭医療センターは『地域診療科』と『総合診療科』で構成されている。『地域診療科』は宮古地区の開業医らを中心とする各医療機関と協力しながら、宮古島市民が要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築の実現を目指している。主な仕事はフレイルと呼ばれる超高齢者虚弱老人や在宅人工呼吸器を使用する神経難病患者、それに小児呼吸不全の患者、癌末期患者たちへの支援など、病院受診が困難になっている寝たきり状態の方たちへの支援である。また『地域診療科』のもうひとつの役割に研修医、医学生、看護学生らに対して地域医療を教育していくという役割もある。家庭医療センターは、総合診療科医師らを中心に、住民と共に医療を考えていく活動をし、宮古島市の健康レベルを高めていこうと計画している。

当院総合診療科では、総合診療科Ⅱとしての研修として位置づけされている。『総合診療科』は基本的に当院総合診療外来での初診外来を担当する。また救急室当直、病棟入院患者の主治医など、院内各科専門医らと連携し入院・外来患者の治療に指導医らと共に実施していく。総合診療科では、多岐にわたる臓器問題を抱えた高齢者の医療、重症管理、退院支援、家族関係と調整、病棟管理など病院基盤型の総合診療医を経験し学ぶことができるよう環境を整備してある。

宮古島に唯一の総合病院である当院の新患外来（総合診療外来）には様々な主訴のあらゆる患者が来院する。未分化の状態にある問題を同定し、しっかりとしたアセスメントと方向性を立て再診外来で継続してみていく。必要なケースは他科にコンサルテーションを行うなど、ゲートキーパー的な役割を求められ対応する能力を養う。医療の提供において、離島独特の歴史や文化などが生活や疾病に影響していること、台風などの自然災害や地理的特性を考慮せねばならないなど、総合的な価値判断も求められている。宮古島という離島においては完結型の医療が求められ、総合診療専門研修プログラム「うぷらうさぎ」では、人口 5 万人の住む宮古島という離島において本格的な住民の求める医療のあり方や家庭医療・総合診療の本質を学ぶことができる。

令和 5 年度のプログラム変更により、新しく総合診療Ⅱとして研修できる病院・南砺市民病院が加わるようになった。南砺市民病院は富山県南砺二次医療圏の各種専門診療を提供する急性期病院で、南砺地区のセンター病院、へきち拠点病院の指定を受け、広汎な初期から高次医療を提供している。総合診療科においては、幅広い疾患に対する初診を中心とした外来診療、専門各科にまたがる問題を持つ患者に対する病棟医療、救急医療、在宅診療などを提供し、総合診療Ⅱの研修に相応しい病院、かつ南国の離島・宮古島とは、全く異なる自然環境、文化環境などで幅広い視野を持つことができると期待している。

令和 6 年度のプログラム変更により新しく総合診療Ⅱとして研修できる病院・手稲溪仁会病院、那覇市立病院、中頭病院、大阪けいさつ病院が加わるようになった。

手稲溪仁会病院は札幌市に位置し、札幌北西部および後志・石狩地域における急性期総合医療を担う拠点病院で、2012 年 10 月には「地域医療支援病院」の承認を受け、当院の医療連携に対する取り組みや専門性の高い医療などが改めて認められ、より高度な先進医療の提供をめざし、提携医療機関と協力しながら医療機能の分化を図り、地域医療全体の発展に貢献する役割を担う病院として位置付けられております。

那覇市立病院は沖縄県本島那覇市に位置し、地域医療支援病院、また、人材育成を目的とした臨床研修指定病院として、「地域住民を守る」というミッション（使命）、「働きやすさ」、「学びやすさ」のふたつのビジョンを掲げ、地域の先生方と共に地域連携の強化を進め、地域医療の発展と貢献に邁進している病院です。

中頭病院は沖縄本島中部に位置し、沖縄本島中部医療圏の地域医療支援病院として、救急医療体制の充実、高度急性期医療の推進、集学的がん治療の構築をコンセプトに、地域の先生方と共に地域連携の強化を進め、地域医療の発展と貢献に邁進している病院です。

大阪けいさつ病院は大阪府天王寺に位置し、地域医療の中核的病院として新しい医療機器の充実、先端医療、高機能医療の実現に努めている病院で、この度総合診療科を立ち上げ地域のクリニック（葛西医院、おく内科在宅クリニック）と在宅医療を中心とした地域に根ざす医療を支えていこうとする病院・総合診療プログラムになっております。

令和7年度のプログラム変更により、新たに沖縄県立北部病院附属診療所、中部病院附属診療所、南部医療センター附属診療所、八重山病院附属診療所、ならびに沖縄県立以外の離島診療所である竹富町立黒島診療所、竹富診療所、与那国町診療所、公立久米島病院、伊江村立診療所が総合診療Ⅰ、野崎徳洲会病院が総合診療Ⅱの分野で連携施設に加わることとなりました。これにより、沖縄県内のすべての離島診療所で研修を行うことが可能なプログラムとなっております。

B. プログラムの理念、全体的な研修目標

沖縄県立宮古病院総合診療専門研修プログラム「うぷらうさぎ」の目的は、患者を生物心理社会性の視点あるいは医療観で理解し、確保した情報に基づく診療技術と安全な治療技術を提供できる医師となることである。そうして地域の中で病院を初めとする多くの医療機関が協力し連携することにより、地域住民の健康を支えていくことが地域医療の本来の姿であることを理解することである。

現在、地域の病院や診療所の医師が、かかりつけ医として地域医療を支えている。今後の日本社会の急速な高齢化等を踏まえると、健康にかかわる問題について適切な初期対応等を行う医師が必要となることから、総合的な診療能力を有する医師の専門性を評価し、新たな基本診療領域の専門医と位置づける。以下の3つの理念に基づいて制度を構築する。

1. 総合診療専門医の質の向上を図り、以て、国民の健康・福祉に貢献することを第一の目的とする。
2. 地域で活躍する総合診療専門医が、誇りをもって診療等に従事できる専門医資格とする。特に、これから、総合診療専門医資格の取得を目指す若手医師にとって、夢と希望を与える制度となることを目指す。
3. 我が国の今後の医療提供体制の構築に資する制度とする。

沖縄県立宮古病院総合診療専門研修プログラム「うぷらうさぎ」の使命は、日常遭遇する疾病と傷害等に対して適切な初期対応と必要に応じた継続的な診療を全人的に提供するとともに、地域のニーズを踏まえた疾病の予防、介護、看とりなど保健・医療・介護・福祉活動に取り組み、絶えざる自己研鑽を重ねながら人々の命と健康に関わる幅広い問題について適切に対応する使命を担う。

沖縄県立宮古病院総合診療専門研修プログラム「うぷらうさぎ」の専門研修後の成果（Outcome）

「うぷらうさぎ」の専門研修後の専攻医らは、地域を支える診療所や病院においては、他の領域別専門医、一般の医師、歯科医師、医療や健康に関わるその他職種等と連携して、地域の保健・医療・介護・福祉等の様々な分野におけるリーダーシップを発揮しつつ、多様な医療サービス（在宅医療、緩和ケア、高齢者ケア、等を含む）を包括的かつ柔軟に提供できるようになる。また、総合診療部門を有する病院においては、臓器別でない病棟診療（高齢入院患者や心理・社会・倫理的問題を含む複数の健康問題を抱える患者の包括ケア、癌・非癌患者の緩和ケア等）と臓器別でない外来診療（救急や複数の健康問題をもつ患者への包括的ケア）を提供することができるようになる。具体的には、総合診療医に欠かせない以下の7つの資質・能力を獲得することを目指す。

1. 包括的統合アプローチ
2. 一般的な健康問題に対応する診療能力
3. 患者中心の医療・ケア
4. 連携重視のマネジメント

5. 地域包括ケアを含む地域志向アプローチ
6. 公益に資する職業規範
7. 多様な診療の場に対応する能力

この沖縄県立宮古病院家総合診療専門研修プログラム「うぷらうさぎ」の初期ゴールは「総合診療専門医取得を目標とする」こととする。

C. 研修期間を通じて行われる勉強会・カンファレンス等の教育機会

(例) 定期的な TV 会議システムによるカンファレンス・経験省察研修録（ポートフォリオ）勉強会や作成指導等
 沖縄県立宮古病院家総合診療専門研修プログラム「うぷらうさぎ」における総合診療専門研修専攻医に対する教育の活動

1. 毎朝の入院患者カンファランス
2. 毎日の病棟カンファランス: 毎日専攻医の受け持つ入院患者の回診を行い、治療方針を細かく点検し教育的フィードバックを行う。
3. 新患外来、再診外来における指導: それぞれ週に1回ずつ担当し、指導医が常に相談できる体制をとり、当日にフィードバック(カルテチェック回診)を行う。
4. 訪問診療の体験と指導: 経験豊富な指導医と共に平日午後に定期訪問をしている。また夜間および休日のオンコール担当を積極的に行う。訪問診療活動を通して看取りのあり方、在宅における急性期の対応を経験し、指導医による1対1ポートフォリオ指導と自己省察を行う。
5. リハビリ評価: リハビリ専門を持つ指導医による1対1教育は高齢者の診察においては特に重要なためリハビリ専門医の視点から外来・入院患者の身体診察評価を加え、その結果を正しく診療録に記載できるよう1対1で教育指導を行う。
6. 定期的な指導医による1対1ポートフォリオ指導と自己省察を兼ねた症例発表会
7. 病理カンファランス(CPC): 年に3~5回開催する。専攻医の受け持ったケースの死因を深く考察し病態理解を深める。
8. 総合診療科-内科-救急科の合同勉強会 週1回
9. 学会・セミナー参加: 総合診療専攻医らには積極的に日本プライマリ・ケア学会をはじめ多くの総合診療やプライマリ・ケアに関係する学会、研究会、生涯教育セミナーに参加できるようにする。
10. 外部講師による教育的症例検討会と教育的回診: 年に2~4回開催する(例: 感染症専門医による感染症症例の検討、総合内科専門医による臨床推論症例検討会と教育的回診)
11. 心肺蘇生のための各種講習会(ICLS、ISLS、BLS、PUSH、PCLS、PSLS、BLSOなど)を開催し指導を行う。

D. ローテーションのスケジュールと期間

(4年以上のプログラムの場合は、枠を増やして4年目以降のローテーションについても記載すること)

小:小兒科 救:救急科 內:內科 精:精神科 整:整形外科 產婦:產婦人科

[illegible]

	領域	小	小	小	救	救	救	内	内	内	内	内	内
3 年目		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
	施設名	Y	Y	Y	Y	Y	Y	M	M	M	M	M	M
	領域	総 I	総 I	総 I	その他	その他	その他	総 I	総 I	総 I	その他	その他	その他

※ 代表的な例を書いてください。募集定員全員のローテーション表は不要です。

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ (6) カ月				総合診療専門研修Ⅱ (6) カ月			
領域別 研修	内科 (12) カ月		小児科 (3) カ月		救急科 (3) カ月		その他 (6) カ月	

※ローテーションする施設によって研修期間が異なる場合(例えば、総合診療専門研修Ⅰが A 診療所なら 6 ヶ月、B 診療所なら 9 ヶ月など)、これらの表はコピー＆ペーストして複数作成してください。

※「総診Ⅰ」、「総診Ⅱ」、「内科」、「小児科」、「救急」、「その他」という表記で記入してください。

※整備基準にある「平成 30 年度からの 3 年間に専門研修が開始されるプログラムについては、専門研修施設群の構成についての例外を日本専門医機構において諸事情を考慮して認めることがある。」との規定を踏まえ、3 年間の研修プログラムにおいても、最大 6 か月間の選択研修が認められます。ただし、その場合でも、各研修科の研修期間の要件を満たすことが必要です。

※「総診Ⅰ」と「総診Ⅱ」を同時に研修することはできません。また、原則として異なる医療機関での研修を実施する必要があります。

※原則として、都道府県の定めるへき地に専門研修基幹施設が所在するプログラム、あるいは研修期間中に 2 年以上のへき地での研修を必須にしているプログラムにおいて、ブロック制で実施できない合理的な理由がある場合に限り、小児科・救急科の研修をカリキュラム制で実施することが認められます。該当する場合は、特記事項に詳細を記入してください。

5. 準備が必要な研修項目

地域での健康増進活動

実施予定場所 (宮古病院、保健所、宮古島市社会福祉協議会、各地区公民など)

実施予定の活動(アルコールと健康、肥満とメタボリック症候群、寝たきり予防のための運動療法、宮古島におけるツツガムシ病の実態、宮古島における性感染症、妊婦と禁煙など)

実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか

(専攻医が総合診療Ⅱと総合診療所Ⅰ診療所をローテートするときに研修成果として住民に健康増進啓蒙活動として活動していく)

教育(学生、研修医、専門職に対するもの)

実施予定場所 (沖縄県シュミレーションセンター、当院会議室、ミニ会議室、学会、研修会など)

実施予定の活動(プライマリケアのための各種心肺蘇生法(ICLC、ISLS、BLS、PUSH、PCLS、PSLS、BLSO)、往診における腹部超音波の実際、高齢者筋力評価とホームエクササイズの実際など、その他各専門医による学生向けの地域医療講座)

実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか

(専攻医が総合診療Ⅱと総合診療所Ⅰ診療所をローテートするときに研修医に対する教育活動の一貫としても、また専門指導医が医学生や看護学生に対しての臨床教育活動として 1 年を通して実践していく)

研究

実施予定場所（ 琉球大学医学部臨床研究支援センター、当院会議室、ミニ会議室 ）

実施予定の活動（ 日常の臨床よりテーマを見つける ）

実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか

（ 日常の臨床よりテーマを見つけるため専攻医2年目以降に研究テーマを決める。）

6. 専攻医の評価方法（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））

※形成的評価と総括的评价を研修修了認定の方法も含めて具体的に記入してください。

形成的評価

■JRS システム・J-GOAL によるオンライン研修手帳の定期的記録チェック及び定期的な指導医との振り返りを実施する（頻度：月に1回）

■経験省察研修録（ポートフォリオ）作成の支援を通じた指導を行う（頻度：年3～6回）

■作成した経験省察研修録（ポートフォリオ）の発表会を行う（頻度：年に3～6回）

■実際の業務に基づいた評価（Workplace-based assessment）を定期的実施する（頻度：年3回程度）

■多職種による360度評価を各ローテーション終了時等、適宜実施する

■年に複数回、他の専攻医との間で相互評価セッションを実施する

■ローテート研修における生活面も含めた各種サポートや学習の一貫性を担保するために専攻医にメンターを配置し定期的に支援するメンタリングシステムを構築する

■メンタリングセッションは数ヶ月に一度程度を保証する

総括的评价

■総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱの研修終了時には、研修手帳に専攻医が記載した経験目標に対する自己評価の確認と到達度に対する評価を総合診療専門研修指導医が実施する。

■内科ローテート研修において、症例登録・評価のため、内科領域で運用する専攻医登録評価システム J-OSLER(Web 版研修手帳)による症例登録と評価を行う。研修終了時には病歴要約評価を含め、技術・技能評価、専攻医の全体評価結果を内科指導医が確認し、総合診療プログラムの統括責任者に報告する。

■3ヶ月の小児科の研修終了時には、小児科の研修内容に関連した評価を小児科の指導医が実施する

■3ヶ月の救急科の研修終了時には、救急科の研修内容に関連した評価を救急科の指導医が実施する

■以下の基準でプログラム統括責任者はプログラム全体の修了評価を実施する

(1) 研修期間を満了し、かつ認定された研修施設で総合診療専門研修ⅠおよびⅡ各6ヶ月以上・合計18ヶ月以上、内科研修12ヶ月以上、小児科研修3ヶ月以上、救急科研修3ヶ月以上を行っており、それぞれの指導医から修了に足る評価が得られている

(2) 専攻医自身による自己評価と省察の記録、作成した経験省察研修録（ポートフォリオ）を通じて、到達目標がカリキュラムに定められた基準に到達している

(3) 研修手帳に記録された経験目標が全てカリキュラムに定められた基準に到達しているか確認する。

なお、研修期間中複数回実施される、医師・看護師・事務員等の多職種による360度評価（コミュニケーション、チームワーク、公益に資する職業規範）の結果も重視する

研修修了認定の方法（総括的评价結果の判断の仕方・修了認定に関わるメンバー）

修了判定会議のメンバー

■研修プログラム管理委員会と同一

□その他（ ）

修了判定会議の時期（ 毎年3月 ）

7. プログラムの質の向上・維持の方法**研修プログラム管理委員会**

委員会の開催場所（ 沖縄県立宮古病院 3階会議室 ）

委員会の開催時期（ 毎年5月、9月、12月 ）

専攻医からの個々の指導医に対する評価

評価の時期（ 毎年10月、3月 ）

評価の頻度（ 年2回 ）

評価結果の利用法（ 専攻医教育指導法や専攻医ひとりひとりに合ったプログラムの修正を図るのに利用 ）

研修プログラムに対する評価

評価の時期（ 毎年 9 月、3 月 ）
 評価の頻度（ 年 2 回 ）
 評価結果の利用法（ 専攻医教育指導法や専攻医ひとりひとりに合ったプログラムの修正を図るのに利用 ）

8. 専門研修施設群

基幹施設の施設要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））

- ☐ 総合診療専門研修Ⅰの施設基準を満たしている。
☒ 総合診療専門研修Ⅱの施設基準を満たしている。
☐ 大学病院で研修全体の統括組織としての役割を果たしている、あるいは適切な病院群を形成している施設である。

研修施設群全体の要件。

- ☒ 総合診療専門研修Ⅰとして、のべ外来患者数 400 名以上／月、のべ訪問診療件数 20 件以上／月である。
☒ 総合診療専門研修Ⅱとして、のべ外来患者数 200 名／月以上、入院患者総数 20 名以上／月である。
☒ 小児科研修として、のべ外来患者数 400 名以上／月である。
☒ 救急科研修として、救急による搬送等の件数が 1000 件以上／年である。

地域医療・地域連携への対応

- ☐ へき地・離島、被災地、医療資源の乏しい地域での研修が 1 年以上である。

具体的に記載：

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ か月）
 施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ か月）
 施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ か月）

- ☒ 基幹施設がへき地※に所在している。

- ☐ へき地※での研修期間が 2 年以上である。

具体的に記載：

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ か月）
 施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ か月）
 施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ か月）

※過疎地域自立推進特別措置法に定める過疎地域。詳細は総務省ホームページ参照

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm

http://www.soumu.go.jp/main_content/000456268.pdf

9. 基幹施設

研修施設名	沖縄県立宮古病院		
所在地	住所 〒 906-0013 沖縄県宮古島市平良字下里 427 番地 1 電話 0980-72-3151 FAX 0980-74-3105 E-mail xx036048@pref.okinawa.lg.jp		
プログラム統括責任者氏名	砂川 惇司	指導医登録番号	20030730
プログラム統括責任者 部署・役職	総合診療科医長		
事務担当者氏名	本村 太志		
連絡担当者連絡先	住所 〒 906-0013 沖縄県宮古島市平良字下里 427 番地 1 電話 0980-72-3151 FAX 0980-74-3105 E-mail motomuta@pref.okinawa.lg.jp		
基幹施設のカテゴリー	☐ 総合診療専門研修Ⅰの施設 ☒ 総合診療専門研修Ⅱの施設 ☐ 大学病院		
基幹施設の所在地	二次医療圏名（ 宮古保健医療圏 ） 都道府県の定めるへき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → ☒ はい ☐ いいえ		
施設要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
☒ 総合診療以外の 18 基本診療領域の基幹施設機能を、本プログラム統括責任者が所属する診療科あるいは部門では担当していない（プログラム基幹施設の役割を診療科・部門が兼任していない）			

- 本プログラム以外の総合診療専門研修プログラムを本基幹施設は運営していない
 - プログラム統括責任者が常勤で勤務し、コーディネーターとしての役目を十分果たせるように時間的・経済的な配慮が十分なされている
 - 専門研修施設群内での研修情報等の共有が円滑に行われる環境（例えばTV会議システム等）が整備されている
 - プログラム運営を支援する事務の体制が整備されている
 - 研修に必要な図書や雑誌、インターネット環境が整備されている
 - ※研修用の図書冊数（ 50 冊 ）
 - ※研修用の雑誌冊数（ 5 種類 ）
 - ※専攻医が利用できる文献検索や二次資料の名称（ Up-to-date、PubMed、ACP ジャーナル、DynMed、Cochrane Library ）
 - ※インターネット環境
 - LAN 接続のある端末
 - ワイヤレス
 - 自施設で臨床研究を実施したり、大学等の研究機関と連携した研究ネットワークに加わったりするなど研究活動が活発に行われている
- 具体例（杉田周一家庭医療専門医師は琉球大学医学部臨床研究支援センターにて臨床研究インテグレーションフェロシップ[®]研修指導を受けている、研究テーマは誤嚥性肺炎、島袋彰家庭医療専門医師は東京慈恵医科大学の「プライマリケアのための臨床教育プログラムコース」に所属し、「資源の限られた離島診療所における尿路感染症治療の実態－Descriptive Study－」というテーマで臨床研修指導を受けている。）

10. 連携施設	
連携施設名	読谷村診療所
所在地	住所 〒904-0305 沖縄県中頭郡読谷村都屋 167 番地 電話 098-956-1151 FAX 098-956-9560 E-mail info@rakuwakai.com
連携施設担当者氏名	多鹿 昌幸
連携施設担当者 部署・役職	マネージャー
事務担当者氏名	矢貫卓博
連絡担当者連絡先	住所 〒904-0305 沖縄県中頭郡読谷村都屋 167 番地 電話 098-956-1151 FAX 098-956-9560 E-mail manager@rakuwakai.com
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 中部医療圏 ） 都道府県定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →□はい ■いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	沖縄県立宮古病院附属多良間診療所
所在地	住所 〒906-0600 沖縄県宮古郡多良間村字塩川 162-3 電話 0980-79-2101 FAX 0980-79-2103 E-mail tarama.clinic.2014@gmail.com
連携施設担当者氏名	瑞慶覧 聡太
連携施設担当者 部署・役職	診療所医師（所長）
事務担当者氏名	本村 太志
連絡担当者連絡先	住所 〒906-0013 沖縄県宮古島市平良字下里 427-1 電話 0980-72-3151 FAX 0980-74-3105 E-mail motomuta@pref.okinawa.lg.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 宮古保健医療圏 ） 都道府県定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →■はい □いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	ドクターゴン診療所
所在地	住所 〒906-0203 沖縄県宮古島市上野字宮国 746-17 電話 0980-76-2788 FAX 0980-76-2752 E-mail gon@cosmos.ne.jp
連携施設担当者氏名	泰川 恵吾
連携施設担当者 部署・役職	理事長兼院長
事務担当者氏名	泰川 早苗
連絡担当者連絡先	住所 〒 同上 電話 090-9782-6655 FAX 0980-76-2752 E-mail gon@cosmos.ne.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 宮古保健医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →■はい □いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	眞生会 池村内科医院
所在地	住所 〒906-0007 沖縄県宮古島市平良字東仲宗根 194 番地 電話 (0980) 72-3500 FAX (0980) 73-5100 E-mail info@ikemura-miyako.com
連携施設担当者氏名	池村 眞
連携施設担当者 部署・役職	理事長兼院長
事務担当者氏名	平良 政樹
連絡担当者連絡先	住所 〒 906-0007 沖縄県宮古島市平良字東仲宗根 194 番地 電話 (0980) 72-3500 FAX (0980) 73-5100 E-mail info@ikemura-miyako.com
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 宮古保健医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →■はい □いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	医療法人たぶの木 うむやすみゃあす・ん診療所
所在地	住所 〒906-0013 沖縄県宮古島市平良下里 1477-4 電話 0980-73-3854 FAX 0980-73-3851 E-mail info@umuyasu.com
連携施設担当者氏名	竹井 太
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	上地 悠子
連絡担当者連絡先	住所 〒906-0013 電話 0980-73-3854 FAX 0980-73-3851 E-mail yuechi@umuyasu.com
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 宮古保健医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →■はい □いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	医療法人アイエスケイ 杉田医院
所在地	住所 〒475-0837 半田市有楽町 4-154-4 電話 0569-22-0571 FAX 0569-22-0959 E-mail shu.sugita19810922@gmail.com
連携施設担当者氏名	杉田 周一
連携施設担当者 部署・役職	医師
事務担当者氏名	杉田 周一
連絡担当者連絡先	住所 〒475-0837 半田市有楽町 4-154-4 電話 0569-22-0571 FAX 0569-22-0959 E-mail shu.sugita19810922@gmail.com
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 知多半島保健医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → ☐ はい ☒ いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	南砺市民病院
所在地	住所 〒932-0211 富山県南砺市井波 938 番地 電話 0763-82-1475 FAX 0763-82-4853 E-mail joho1204-nantohp@yahoo.co.jp
連携施設担当者氏名	大浦 誠
連携施設担当者 部署・役職	医師
事務担当者氏名	城寶 学
連絡担当者連絡先	住所 〒932-0211 富山県南砺市井波 938 番地 電話 0763-82-1475 FAX 0763-82-4853 E-mail joho1204-nantohp@yahoo.co.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 南砺保健医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → ☒ はい ☐ いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	手稲溪仁会病院
所在地	住所 〒006-0811 北海道札幌市手稲区前田1条12丁目1-40 電話 011-681-8111 FAX 011-685-2196 E-mail tkh-senmoni@keijinkai.or.jp
連携施設担当者氏名	星 哲也
連携施設担当者 部署・役職	総合内科主任部長・臨床研修部部長医
事務担当者氏名	小林磨季
連絡担当者連絡先	住所 〒006-0811 北海道札幌市手稲区前田1条12丁目1-40 電話 011-681-8111 FAX 011-685-2196 E-mail tkh-senmoni@keijinkai.or.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（札幌） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → ☐ はい ☒ いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	手稲家庭医療クリニック
所在地	住所 北海道札幌市手稲区前田 2 条 10 丁目 1-10 電話 011-685-3920 FAX 011-685-3921 E-mail : otsuka-ry@keijinkai.or.jp
連携施設担当者氏名	大塚 亮平
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	澤田 みゆき
連絡担当者連絡先	住所 〒006-0812 北海道札幌市手稲区前田 2 条 10 丁目 1-10 電話 011-685-3920 FAX 011-685-3921 E-mail : sawada-miyu@keijinkai.or.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（札幌） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → ☐ はい ☒ いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	地方独立行政法人那覇市立病院
所在地	住所 〒902-8511 那覇市古島 2-31-1 電話 098-884-5111 FAX 098-885-9596 E-mail ryumic_nch@nch.naha.okinawa.jp
連携施設担当者氏名	知花 なおみ
連携施設担当者 部署・役職	診療部内科 内科部長
事務担当者氏名	名護 裕介
連絡担当者連絡先	住所 〒902-8511 那覇市古島 2-31-1 電話 098-884-5111 FAX 098-885-9596 E-mail ryumic_nch@nch.naha.okinawa.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（南部医療圏） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → ☐ はい ☒ いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	中頭病院
所在地	住所 〒904-2142 沖縄県沖縄市字登川 610 番地 電話 098 - 939 - 1300 FAX 098-937-8699 E-mail jimu-rinken@keiaikai.okinawa
連携施設担当者氏名	與那覇 忠博
連携施設担当者 部署・役職	総合内科、総合内科医長
事務担当者氏名	大城 真弓
連絡担当者連絡先	住所 〒904-2142 沖縄県沖縄市字登川 610 番地 電話 TEL : 098 - 939 - 1300 Fax 098-937-8699 E-mail jimu-rinken@keiaikai.okinawa
連携施設の所在地	二次医療圏名（中部保健医療圏） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → ☐ はい ☒ いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	社会医療法人 大阪国際メディカル&サイエンスセンター 大阪けいさつ病院
所在地	住所 大阪府大阪市天王寺区烏ヶ辻 2-6-40 電話 06-6771-6051 FAX 06-6775-2838 E-mail
連携施設担当者氏名	水島 靖明
連携施設担当者 部署・役職	ER・救命救急科 副院長
事務担当者氏名	玉置 美希
連絡担当者連絡先	住所 〒543-0035 大阪市天王寺区烏ヶ辻 2-6-40 電話 06-6771-6051 FAX 06-6775-2838 E-mail jinj-k@oim.or.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 大阪市東部 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → ☐ はい ☒ いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	医療法人徳洲会 野崎徳洲会病院
所在地	住所：大阪府大東市谷川 2 丁目 10 番 50 号 電話：072-874-1641（代表） FAX：072-874-1253 E-mail：nozafuji@tokushukai.jp
連携施設担当者氏名	上羅 洋平
連携施設担当者 部署・役職	総務課 医局人事室・主任
事務担当者氏名	上羅 洋平
連絡担当者連絡先	住所 大阪府大東市谷川 2 丁目 10 番 50 号 電話：072-874-5423（直通） FAX：072-874-1253 E-mail：yohei.uera@tokushukai.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 北河内医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → ☐ はい ☒ いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	竹富町立竹富診療所
所在地	住所 〒907-1101 電話：0980-85-2132 FAX：0980-85-2171 E-mail：taketomi@jadecom.info
連携施設担当者氏名	辻 和宏
連携施設担当者 部署・役職	診療所長
事務担当者氏名	山城 かおり
連絡担当者連絡先	住所 〒900-0029 沖縄県那覇市旭町 116-37 沖縄県市町村自治会館 2 階 電話：098-867-5866 FAX：098-867-5882 E-mail：kaoriya@jadecom.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（八重山医療圏） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → ☒ はい ☐ いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	竹富町立黒島診療所
所在地	住所 〒907-1311 沖縄県八重山郡竹富町字黒島 1473 番地 1 電話：0980-85-4114 FAX：0980-85-4177 E-mail：kuroshima@jade.com.info
連携施設担当者氏名	岩永 健志
連携施設担当者 部署・役職	診療所長
事務担当者氏名	山城 かおり
連絡担当者連絡先	住所 〒900-0029 沖縄県那覇市旭町 116-37 沖縄県市町村自治会館 2 階 電話：098-867-5866 FAX：098-867-5882 E-mail：kaoriya@jade.com.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（八重山医療圏） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → ☒ はい ☐ いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	与那国町診療所
所在地	住所 〒907-1801 電話：0980-87-2250 FAX：0980-87-2541 E-mail：yonaguni@jade.com.jp
連携施設担当者氏名	阿部 二郎
連携施設担当者 部署・役職	診療所長
事務担当者氏名	大城 千鶴
連絡担当者連絡先	住所 〒900-0029 沖縄県那覇市旭町 116-37 沖縄県市町村自治会館 2 階 電話：098-867-5866 FAX：098-867-5882 E-mail：chizuruo@jade.com.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（八重山医療圏） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → ☒ はい ☐ いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	公益社団法人地域医療振興協会 公立久米島病院
所在地	住所 沖縄県島尻郡久米島町字嘉手刈 572-3 電話：098-985-5555 E-mail：
連携施設担当者氏名	並木 宏文
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	浜口 絹代
連絡担当者連絡先	住所 沖縄県島尻郡久米島町字嘉手刈 572-3 電話：098-985-5555 FAX：098-985-5565 E-mail：kinuyoh@jade.com.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（南部） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → ☒ はい ☐ いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	伊江村立診療所

別添 1 専門研修プログラムの概要と診療実績

所在地	住所 伊江村字東江明 459 番地 電話 : 0980-49-2054 E-mail : yoshi99.abe@me.com
連携施設担当者氏名	阿部 好弘
連携施設担当者 部署・役職	診療所 所長
事務担当者氏名	万寿 祥久 (ます よしひさ)
連絡担当者連絡先	住所 同 上 電話 : 0980-49-2234 FAX : 0980-49-5851 E-mail : y-masu@iejima.org
連携施設の所在地	二次医療圏名 () 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → ☒ はい ☐ いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	沖縄県立北部病院附属伊是名診療所
所在地	住所 〒905-0603 沖縄県島尻郡伊是名村仲田 1198 伊是名診療所 電話 : 0980-45-2017 FAX : 0980-45-2020 E-mail : izena.clinic1198@gmail.com
連携施設担当者氏名	古澤 由華
連携施設担当者 部署・役職	医師
事務担当者氏名	名嘉 つや子
連絡担当者連絡先	住所 〒 同上 電話 : FAX : E-mail
連携施設の所在地	二次医療圏名 (北部地区) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → ☒ はい ☐ いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	沖縄県立北部病院附属伊平屋診療所
所在地	住所 〒905-0703 沖縄県島尻郡伊平屋村我喜屋 2 1 7-3 電話 : 0980-46-2116 FAX : 0980-46-2587 E-mail :
連携施設担当者氏名	真栄田 この実
連携施設担当者 部署・役職	医師
事務担当者氏名	伊礼 典子
連絡担当者連絡先	住所 〒905-0703 沖縄県島尻郡伊平屋村我喜屋 2 1 7-3 電話 : 0980-46-2116 FAX : 0980-46-2587 E-mail :
連携施設の所在地	二次医療圏名 (北部地区) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → ☒ はい ☐ いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	沖縄県立中部病院附属津堅診療所
所在地	住所 〒904-2317 沖縄県うるま市勝連津堅 1582

別添 1 専門研修プログラムの概要と診療実績

	電話：098-978-2918 FAX：098-978-300 E-mail：och_kenshu@hosp.pref.okinawa.jp
連携施設担当者氏名	照屋 瑛莉子
連携施設担当者 部署・役職	所長
事務担当者氏名	兼城 文子
連絡担当者連絡先	住所 〒904-2293 電話：098-973-4111 FAX：098-973-2703 E-mail och_kenshu@hosp.pref.okinawa.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 中部 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → ☒ はい ☐ いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属久高診療所
所在地	住所 〒901-1501 沖縄県南城市知念字久高 231-2 電話： 098-948-1319 FAX：098-948-1313 E-mail：takaaki1986@hotmail.com
連携施設担当者氏名	鈴木 貴明
連携施設担当者 部署・役職	診療所医師
事務担当者氏名	國仲 さゆり
連絡担当者連絡先	住所 〒901-1193 沖縄県島尻郡南風原町字新川 118-1 電話：098-888-0123 FAX：098-888-6400 E-mail：nanbu_pgmecc@hosp.pref.okinawa.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 南部医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → ☒ はい ☐ いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属北大東診療所
所在地	住所 〒901-3902 沖縄県島尻郡北大東村字中野 209-10 電話：09802-3-4005 FAX：09802-3-4083 E-mail：aki.9gkk@gmail.com
連携施設担当者氏名	島袋 彬道
連携施設担当者 部署・役職	診療所医師
事務担当者氏名	國仲 さゆり
連絡担当者連絡先	住所 〒901-1193 沖縄県島尻郡南風原町字新川 118-1 電話：098-888-0123 FAX：098-888-6400 E-mail：nanbu_pgmecc@hosp.pref.okinawa.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 南部医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → ☒ はい ☐ いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属南大東診療所
所在地	住所 〒901-3805 沖縄県島尻郡南大東村字在所 183-4 電話：09802-2-2850 FAX：09802-2-2851 E-mail：nanbu_pgmecc@hosp.pref.okinawa.jp

連携施設担当者氏名	中矢代 真美
連携施設担当者 部署・役職	副院長兼母子センター長
事務担当者氏名	國仲 さゆり
連絡担当者連絡先	住所 〒901-1193 沖縄県島尻郡南風原町字新川 118-1 電話：098-888-0123 FAX：098-888-6400 E-mail：nanbu_pgmechosp.pref.okinawa.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 南部医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →■はい □いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属栗国診療所
所在地	住所 〒901-3702 沖縄県島尻郡栗国村字東 573 電話：098-988-2003 FAX：098-988-2003 E-mail：bafununi0561@gmail.com
連携施設担当者氏名	大田 瑞生
連携施設担当者 部署・役職	診療所医師
事務担当者氏名	國仲 さゆり
連絡担当者連絡先	住所 〒901-1193 沖縄県島尻郡南風原町字新川 118-1 電話：098-888-0123 FAX：098-888-6400 E-mail：nanbu_pgmechosp.pref.okinawa.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 南部医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →■はい □いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属渡名喜診療所
所在地	住所 〒901-3601 沖縄県島尻郡渡名喜村 1916-1 電話：098-989-2003 FAX：098-989-2003 E-mail：connectingthedots4869@gmail.com
連携施設担当者氏名	宮城 妃奈乃
連携施設担当者 部署・役職	診療所医師
事務担当者氏名	國仲 さゆり
連絡担当者連絡先	住所 〒901-1193 沖縄県島尻郡南風原町字新川 118-1 電話：098-888-0123 FAX：098-888-6400 E-mail：nanbu_pgmechosp.pref.okinawa.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 南部医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →■はい □いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属座間味診療所
所在地	住所 〒901-3402 沖縄県島尻郡座間味村字座間味 441-1 電話：098-987-2024 FAX：098-987-3018 E-mail：kaderino1215@gmail.com
連携施設担当者氏名	嘉手苺 梨乃
連携施設担当者 部署・役職	診療所医師

事務担当者氏名	國仲 さゆり
連絡担当者連絡先	住所 〒901-1193 沖縄県島尻郡南風原町字新川 118-1 電話：098-888-0123 FAX：098-888-6400 E-mail：nanbu_pgmechosp.pref.okinawa.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 南部医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →■はい □いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属渡嘉敷診療所
所在地	住所 〒901-3501 沖縄県島尻郡渡嘉敷村字渡嘉敷 277 電話：098-987-2028 FAX：098-987-2028 E-mail：shimcz.yellow@gmail.com
連携施設担当者氏名	下里 美由希
連携施設担当者 部署・役職	診療所医師
事務担当者氏名	國仲 さゆり
連絡担当者連絡先	住所 〒901-1193 沖縄県島尻郡南風原町字新川 118-1 電話：098-888-0123 FAX：098-888-6400 E-mail：nanbu_pgmechosp.pref.okinawa.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 南部医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →■はい □いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属阿嘉診療所
所在地	住所 〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉 68 電話：098-987-2002 FAX：098-987-2002 E-mail：kuni630510@gmail.com
連携施設担当者氏名	長山 晋聡
連携施設担当者 部署・役職	診療所医師
事務担当者氏名	國仲 さゆり
連絡担当者連絡先	住所 〒901-1193 沖縄県島尻郡南風原町字新川 118-1 電話：098-888-0123 FAX：098-888-6400 E-mail：nanbu_pgmechosp.pref.okinawa.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 南部医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →■はい □いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	沖縄県立八重山病院附属西表西部診療所
所在地	住所 〒907-1542 沖縄県八重山郡竹富町西表 694 電話：0980-85-6268 FAX：0980-85-6249 E-mail：
連携施設担当者氏名	波平 郁実
連携施設担当者 部署・役職	診療所医師
事務担当者氏名	総務課係長 知念 めぐみ 医局秘書 大浜 悦子

別添 1 専門研修プログラムの概要と診療実績

連絡担当者連絡先	住所 〒907-0002 沖縄県石垣市真栄里 5 8 4-1 電話 : 0980-87-5557 FAX : 0980-87-5835 E-mail : kenshuyaeyama@gmail.com
連携施設の所在地	二次医療圏名 (八重山) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → ☒ はい ☐ いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	沖縄県立八重山病院附属波照間診療所
所在地	住所 〒907-1751 沖縄県八重山郡竹富町波照間 2 7 5 0-1 電話 : 0980-85-8402 FAX : 0980-85-8402 E-mail :
連携施設担当者氏名	宮島 一実
連携施設担当者 部署・役職	診療所医師
事務担当者氏名	総務課係長 知念 めぐみ 医局秘書 大浜 悦子
連絡担当者連絡先	住所 〒907-0002 沖縄県石垣市真栄里 5 8 4-1 電話 : 0980-87-5557 FAX : 0980-87-5835 E-mail : kenshuyaeyama@gmail.com
連携施設の所在地	二次医療圏名 () 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → ☒ はい ☐ いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	沖縄県立八重山病院附属小浜診療所
所在地	住所 〒907-1221 沖縄県八重山郡竹富町小浜 3 0 電話 : 0980-85-3247 FAX : 0980-85-3247 E-mail :
連携施設担当者氏名	塩川 絹恵
連携施設担当者 部署・役職	診療所医師
事務担当者氏名	総務課係長 知念 めぐみ 医局秘書 大浜 悦子
連絡担当者連絡先	住所 〒907-0002 沖縄県石垣市真栄里 5 8 4-1 電話 : 0980-87-5557 FAX : 0980-87-5835 E-mail : kenshuyaeyama@gmail.com
連携施設の所在地	二次医療圏名 (八重山) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → ☒ はい ☐ いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	沖縄県立八重山病院附属大原診療所
所在地	住所 〒907-1434 沖縄県八重山郡竹富町南風見 2 0 1-1 3 1 電話 : 0980-85-5516 FAX : 0980-85-5516 E-mail :
連携施設担当者氏名	與那覇 智貴
連携施設担当者 部署・役職	診療所医師
事務担当者氏名	総務課係長 知念 めぐみ 医局秘書 大浜 悦子
連絡担当者連絡先	住所 〒907-0002 沖縄県石垣市真栄里 5 8 4-1 電話 : 0980-87-5557 FAX : 0980-87-5835

	E-mail : kenshuyaeyama@gmail.com
連携施設の所在地	二次医療圏名（八重山） 都道府県定めるへき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →■はい □いいえ

総合診療専門研修 I

総合診療専門研修 I の施設一覧

都道府県 コード	医療機関 コード	へき地・離島、被災地 (該当する場合はチェック)	施設名	基幹施設・ 連携施設の別
47	2210188	☐ へき地・離島 ☐ 被災地	読谷村診療所	☐ 基幹 ■連携
47	2410051	■へき地・離島 ☐ 被災地	多良間診療所	☐ 基幹 ■連携
47	0610793	■へき地・離島 ☐ 被災地	ドクターゴン診療所	☐ 基幹 ■連携
47	0610850	■へき地・離島 ☐ 被災地	池村内科医院	☐ 基幹 ■連携
47	0610843	■へき地・離島 ☐ 被災地	うむやすみやあす・ん診療所	☐ 基幹 ■連携
23	2401710	☐ へき地・離島 ☐ 被災地	杉田医院	☐ 基幹 ■連携
01	0401700	☐ へき地・離島 ☐ 被災地	手稲溪仁会病院家庭医療クリニック	☐ 基幹 ■連携
47	2510157	■へき地・離島 ☐ 被災地	竹富町立竹富診療所	☐ 基幹 ■連携
47	2510173	■へき地・離島 ☐ 被災地	竹富町立黒島診療所	☐ 基幹 ■連携
47	2510058	■へき地・離島 ☐ 被災地	与那国町診療所	☐ 基幹 ■連携
47	8110168	■へき地・離島 ☐ 被災地	公益社団法人地域医療振興協会 公立久米島病院	☐ 基幹 ■連携
47	2110529	■へき地・離島 ☐ 被災地	伊江村立診療所	☐ 基幹 ■連携
47	2310343	■へき地・離島 ☐ 被災地	沖縄県立北部病院附属伊是名診療所	☐ 基幹 ■連携
47	2310335	■へき地・離島 ☐ 被災地	沖縄県立北部病院附属伊平屋診療所	☐ 基幹 ■連携
47	0310691	■へき地・離島 ☐ 被災地	沖縄県立中部病院附属津堅診療所	☐ 基幹 ■連携
47	1210049	■へき地・離島 ☐ 被災地	沖縄県立南部医療センター・こども 医療センター附属久高診療所	☐ 基幹 ■連携
47	2310210	■へき地・離島 ☐ 被災地	沖縄県立南部医療センター・こども 医療センター附属北大東診療所	☐ 基幹 ■連携
47	2310574	■へき地・離島 ☐ 被災地	沖縄県立南部医療センター・こども 医療センター 附属南大東診療所	☐ 基幹 ■連携
47	2310616	■へき地・離島 ☐ 被災地	沖縄県立南部医療センター・こども 医療センター 附属粟国診療所	☐ 基幹 ■連携
47	2310772	■へき地・離島 ☐ 被災地	沖縄県立南部医療センター・こども 医療センター 附属渡名喜診療所	☐ 基幹 ■連携
47	2310988	■へき地・離島 ☐ 被災地	沖縄県立南部医療センター・こども 医療センター 附属座間味診療所	☐ 基幹 ■連携
47	2311002	■へき地・離島 ☐ 被災地	沖縄県立南部医療センター・こども 医療センター 附属渡嘉敷診療所	☐ 基幹 ■連携
47	2311010	■へき地・離島 ☐ 被災地	沖縄県立南部医療センター・こども 医療センター 附属阿嘉診療所	☐ 基幹 ■連携
47	2510066	■へき地・離島 ☐ 被災地	沖縄県立八重山病院附属西表西部診療所	☐ 基幹 ■連携

別添 1 専門研修プログラムの概要と診療実績

47	2510116	■へき地・離島 □被災地	沖縄県立八重山病院附属波照間診療所	□基幹 ■連携
47	2510124	■へき地・離島 □被災地	沖縄県立八重山病院附属小浜診療所	□基幹 ■連携
47	2510140	■へき地・離島 □被災地	沖縄県立八重山病院附属大原診療所	□基幹 ■連携

総合診療専門研修Ⅰを行う施設ごとの詳細

研修施設名	読谷村診療所		
診療科名	(内科、小児科、外科、整形外科、皮膚科、リハビリ科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	■診療所 □病院 施設が病院のとき → 病院病床数 () 床 診療科病床数 () 床		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	(6) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし 常勤指導医なしの場合 □ 都道府県の実定するへき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	■なし □あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	多鹿 昌幸	指導医登録番号	(sd21-1-05123)
常勤指導医氏名 2	山城 正明	指導医登録番号	(sd22-2-082)
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容 ■外来診療：総合診療、生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） ■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている □学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する □学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか () □学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（主に訪問診療患者に対して、当番医が携帯電話を所持し、連絡がとれる体制を有している。また必要に応じ緊急往診も行っている。入院を必要とする急患が発生した場合、重症患者の場合には救急車にて近隣の救病 院に搬送している。）			
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（急性期のフォローが必要な場合は研修期間中に外来にてフォロー可能である。各救急病院からの 返書にて、救急紹介患者については連携しての経過フォローが可能である。）			

■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（村内で唯一の公立、複数医師を有する診療所であるため、村内関係部署と連携している。急性期、慢性期、緩和ケアに関わることができる。また、学校医、認知症初期集中チーム参加などを通し村民全体の保健・予防など地域ヘルスケアとしての活動にも積極的に関わることができる。）	
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（認知症グループホーム、有料老人ホームへの訪問診療を行っている。また、村内特別養護老人ホームの管理を行っている。また、村社会福祉協議会、地域包括ケアセンターと連携し、医療介入が必要な生活弱者に対する医療介入を行っている。）	
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（小児は主に予防接種、急性期感染症で、祖父母にあたる壮年層は生活習慣病の通院、曾祖父母あたる超高齢者には訪問診療を行うなど、3世代にわたって診療を行っている。）	
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（診療所内で特定健診を行っている。また、村役場健康福祉課と連携し二次検診を必要とする患者へのアプローチを行っている。産業医として村関連施設、企業へのアプローチを行っている。）	
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（訪問診療を行っている。24時間体制で急変時の対応や緩和ケアも行っている。）	
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
■のべ外来患者数 400 名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）	
■のべ訪問診療数 20 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）	
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （定期的な勉強会、訪問診療・リハビリカンファレンスを実施している。診療後に症例の振り返りをおこないつつ、実診療中の疑問についてもその都度対応している。学習がしやすいように、オンライン教材の用意、ネット環境を備えている。） 他の施設で行う教育・研修機会 （近隣総合病院での勉強会、地区医師会主催の勉強会がある。）	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数（ 2 ） プログラム名（ 沖縄県立中部病院 島医者養成プログラム ） プログラム名（ 中頭病院 総合診療プログラム ） プログラム名（ ）	

研修施設名	多良間診療所
診療科名	（内科、小児科、外科） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。
施設情報	☒ 診療所 ☐ 病院 施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床 診療科病床数（ ）床
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6 ）カ月
常勤の認定指導医の配置の有無	☐ 配置あり ☒ 配置なし 常勤指導医なしの場合 ■ 都道府県の実定するべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（本院の電子カルテシステムに多良間診療所を接続したこと、テレビ会議システムを構築したことにより、多良間診療所にいながらにして、毎日の新患入院カンファレンスに参加でき、さらに週 1 回の指導医による症例検討会や月 1 回のポータルオ症例発表検討会を実施予定し、指導医も定期的に多良間島に行くことで、研修医の住宅環境や精神状態及び身体状況などを把握できるよう、サポート体制を計画しております。）

研修期間の分割	☐ なし ☒ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ 多良間診療所 3 カ月→沖縄県立宮古病院内科 3 カ月→多良間診療所 3 カ月 ）		
常勤指導医氏名 1		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件（各項目の全てを満たすとき、 ☐ を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容 ■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） ■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか () ☐ 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（入院が必要とする急患が発生した場合、重症患者の場合には海上保安庁ヘリにて石垣島あるいは宮古島の県立病院に搬送している。大凡 1～2 時間ほどの時間を要する。急を要さない場合には民間機で親元病院である県立宮古病院に患者を紹介し、必要であれば精査入院もしている。）			
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（急性期のフォローが必要な場合は研修期間中に外来にてフォローが可能である。また県立宮古病院に搬送となった症例に関しては県立宮古病院と連携し、経過をフォローすることができる。平成 26 年 7 月から電子カルテでも県立宮古病院と多良間診療所の連携が可能となり、入院患者の経過や記載も電子カルテを通して可能となった。）			
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（島内で唯一の診療所であるため、急性期、慢性期、緩和ケアに関わることができ、学校医、健康講話などを通し島民全体の保健・予防など地域ヘルスケアとしての活動にも積極的に関わることができる。）			
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（島内にある社会福祉センターへの往診を行い、施設利用者に異常があれば施設の看護師から連絡がある。）			
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（島内で唯一の診療所であるため、3 世代、4 世代で当診療所を利用受診している家族が殆どであり、0 歳から 90 歳まで受診している。）			
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（村の保健師、村役場と月に 1 回の定例会議を行い、未受診で要注意の患者さんに呼びかけ受診させたり、住民健診受診の広報や村民への健康講話を開催するなど集団的アプローチも行っている。）			
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している 具体的な内容と方法（訪問診療を行っている。24 時間体制で急変時の対応や緩和ケアも行っている。）			
診療実績（各項目を満たすとき、 ☐ を塗りつぶす（■のように））			
■のべ外来患者数 400 名以上／月 ☐ 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()			
☐ のべ訪問診療数 20 件以上／月			

■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ 当院家庭医療センターで行っている訪問診療で経験を補完する。
研修中に定期的に行う教育
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （当診療所には平成25年6月より親元病院である宮古病院電子カルテと同じシステムが導入されWeb会議システムを利用することで宮古病院の朝の新患カンファレンスとレクチャーやポートフォリオ発表会にも参加できるようになった。インターネットや電子カルテの利用で困った症例に対する指導医からの1対1対応の教育的指導も受けられる環境が整備されている。） 他の施設で行う教育・研修機会 （親元病院である宮古病院から代診を派遣されることで他県や沖縄本島で開催される学会や研修会にも参加可能で年に3～4回の参加が保障されている。）
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること
本プログラム以外の参加プログラム数（ 2 ） プログラム名（ 沖縄県立中部病院 島医者養成コース ） プログラム名（沖縄県立南部医療センター・こども医療センター プライマリ・ケアコース ） プログラム名（ ）

研修施設名	ドクターゴン診療所		
診療科名	（ 内科、外科 ）		
	※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	■診療所 □病院 施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床 診療科病床数（ ）床		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6 ）ヵ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	□配置あり ■配置なし 常勤指導医なしの場合 ■ 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である ■ その場合のサポート体制（ 地域特任指導医の候補者あり。 ）		
研修期間の分割	□なし ■あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ドクターゴン診療所3ヵ月→沖縄県立宮古病院内科3ヵ月→ドクターゴン診療所3ヵ月）		
常勤指導医氏名1	泰川恵吾	指導医登録番号	（sd22-2-082）
常勤指導医氏名2		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名3		指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容 ■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） ■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている □学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する □学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか （ ） □学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 （ ）			

学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 (連携薬局と約束処方を作成している)	
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 (オンコール医師 携帯電話への転送電話)	
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略 ()	
□包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略 ()	
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略 (多職種が常に連絡を取り合う体制にある)	
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況 (地域の唯一の医療機関である)	
□地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法 ()	
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度 (オンコール医師 携帯電話への転送電話)	
診療実績 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))	
□のべ外来患者数 400 名以上／月 ■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 (訪問診療に特化した診療所であり、外来患者の不足分は宮古病院で補う。)	
■のべ訪問診療数 20 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()	
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 (毎日カンファを 2 回行っている) 他の施設で行う教育・研修機会 ()	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数 (1) プログラム名 (日本在宅医学会認定専門医) プログラム名 () プログラム名 ()	

研修施設名	眞生会 池村内科医院
診療科名	(内科、循環器科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。
施設情報	■診療所 □病院 施設が病院のとき → 病院病床数 () 床 診療科病床数 () 床
総合診療専門研修 I における研修期間	(6) カ月
常勤の認定指導医の配置の有無	□配置あり ■配置なし 常勤指導医なしの場合 ■ 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である ■その場合のサポート体制 (地域特任指導医の候補者あり。)
研修期間の分割	□なし ■あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい (池村内科医院 3 カ月→沖縄県立宮古病院内科 3 カ月→池村内科

	医院 3 ヶ月)		
常勤指導医氏名 1	池村 眞	指導医登録番号	(2018-0-000)
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容 ■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ☐ 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ) ☐ 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか () ☐ 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 (主に訪問診療患者や透析患者に対して、看護師が携帯電話を所持し 24 時間連絡がとれる体制を有している。			
☐ 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略 ()			
☐ 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略 ()			
☐ 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略 ()			
☐ 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況 ()			
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法 (当院にて特定健診を行っている また、役所と連携し個別がん検診や生活習慣病予防二次健診を行っている)			
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度 (訪問診療を行っている。24 時間体制で急変時の対応や緩和ケアも行っている)			
診療実績 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
☐ のべ外来患者数 400 名以上／月 ■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 (不足分については、宮古病院での研修で補う。)			
■のべ訪問診療数 20 件以上／月 ☐ 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 (			
研修中に定期的に行う教育			

当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 ()
他の施設で行う教育・研修機会 (近隣病院での勉強会や地区医師会主催の勉強会がある)
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること
本プログラム以外の参加プログラム数 ()
プログラム名 ()
プログラム名 ()
プログラム名 ()

研修施設名	医療法人たぶの木 うむやすみゃあす・ん診療所		
診療科名	(脳神経外科、神経内科、内科、リハビリテーション科、精神科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	☒ 診療所 ☐ 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 () 床 診療科病床数 () 床		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	(6) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	☒ 配置あり ☐ 配置なし 常勤指導医なしの場合 ☒ 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である ☐ その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	☐ なし ☒ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （うむやすみゃあす・ん診療所 3 カ月→沖縄県立宮古病院内科 3 カ月→うむやすみゃあす・ん診療所 3 カ月）		
常勤指導医氏名 1	竹井 太	指導医登録番号	(2018-0-000)
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件（各項目の全てを満たすとき、 ☐ を塗りつぶす（ ☒ のように））			
研修の内容 ☒ 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ☒ 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ☒ 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ☒ 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） ☒ 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか () ☐ 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
☒ アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（ 休日及び時間外の電話は、院長携帯に転送され、24 時間対応の体制を取っている。電話での口頭指示、緊急往診、救急隊要請などは、患者の状態に応じて院長が判断している ）			
☒ 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（ 外来患者が通院困難になった場合は、訪問診療に切り替えて継続診療を行っている。また急性増悪などで入院加療を要する場合は、入院先が県立宮古病院であれば「開放病床システム」の活用により、継続診療の			

可能性が広がる)			
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略 (脳疾患や認知症、精神疾患に関しては急性期から慢性期、あるいは軽度から重度に至るあらゆるステージの患者に関わるチャンスがある。産業医、学校医、医療講演会、各種イベントでの医療救護班などを積極的に行っているため、保健予防分野や地域医療活動などを経験することが可能である)			
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略 (複数の介護・福祉事業所の協力医療機関となっており、医学的な助言を提供したり、利用者の健康チェックを定期的実施したりする体制を取っている。関連会社に所属している介護支援専門員と月 2 回の定期カンファレンスを行っている。認知症分野に関しては特に連携体制が整いつつあり、地域包括支援センターや行政との連携ミーティングが 3 ヶ月ごとに行われている。保健所や医療機関、介護支援専門員に広く声を掛ける連携ミーティングは年に 2 回開催している)			
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況 (親の受診に付き添う子供が同時に受診したり健康診断を受けたりする。夫婦で同時に外来受診するケース、夫婦同時に訪問診療を受けるケースなどがある)			
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法 (産業医としての関わり、医療講演会や健康講演会の開催会、健康診断における有所見者に対するフォローアップ (受診勧奨やコンサルジュコールなど)、認知症カフェへの参加)			
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度 (訪問診療を行っている。24 時間体制で急変時の対応を行っている)			
診療実績 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
■のべ外来患者数 1400 名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()			
■のべ訪問診療数 200 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()			
研修中に定期的に行う教育			
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 (院内勉強会、セミナー伝達講習会、製薬会社主催の Web セミナー、リハビリカンファレンス、デイケア患者カンファレンス、訪問患者カンファレンス、介護支援専門員との利用者カンファレンス) 他の施設で行う教育・研修機会 (地区医師会主催の研修会、製薬会社主催の勉強会など)			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 () プログラム名 () プログラム名 () プログラム名 ()			

研修施設名	医療法人アイエスケイ 杉田医院		
診療科名	(内科、小児科、循環器科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	■診療所 □病院 施設が病院のとき → 病院病床数 () 床 診療科病床数 () 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	(6) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし 常勤指導医なしの場合 □ 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である □その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	□なし ■あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい (杉田医院 3 カ月→沖縄県立宮古病院内科 3 カ月→杉田医院 3 カ月)		
常勤指導医氏名 1	杉田 周一	指導医登録番号	(00059)

別添 1 専門研修プログラムの概要と診療実績

常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容 ■ 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ■ 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■ 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ■ 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） ■ 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている □学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する □学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか（ ） □学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由（ ） 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 （ ）			
■ アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（主に訪問患者においては訪問看護ステーションと連携を取り 24 時間体制で相談した場合によって往診での診療を行っている。また入院や緊急での処置が必要な患者においては地域の中核病院である半田市立半田病院に緊急時は紹介を行い対応している。）			
■ 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（外急性期から慢性期における患者の対応を外来での診療で行なっている。また紹介での地域中核病院へ入院した患者に関しては指導医が非常勤で勤務しており継続的にフォローを行なっている。）			
■ 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（性期および慢性期疾患の管理およびターミナルの患者に関しては訪問および外来での緩和医療の導入を行なっている。また学校医や産業医の活動に加えて地域健康講話など地域ヘルスプロモーション活動に一役を担っている。）			
■ 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（地域のケアマネとの相談や基幹病院との連携など適宜行っている。）			
■ 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（小児には日常診療に加えて定期予防接種も活動、スケジュールリングを行っているが家族ぐるみで受診に来るなど家族全体を通して診療のニーズがあり、またそれぞれのライフステージに応じた発生すべき問題への対処を行っている）			
■ 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（診療所内で地域特定健診を行い、異常所見に関して速やかにフォローの検査を行っている。産業医における企業健診も行っており普段受診機会の少ない世代へのヘルスプロモーション活動も行っている。）			
■ 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（週に 5-10 件ほどの在宅患者の訪問診療を行い、必要に応じて往診を行っている。患者層としては高齢の末期癌患者が多く看取りがベースとなっており適宜緩和ケアの導入を行っている。諸処の問題に関して訪問看護ステーションと連携を取りながら適宜往診を行うなどして対応している。）			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■ のべ外来患者数 400 名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 （ ）			
■ のべ訪問診療数 20 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
研修中に定期的に行う教育			

当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 (診療の振り返りを行っている。またオンラインベースでの文献の検索および UpToDate の利用による臨床上の疑問点 へのアプローチを行っている。問題事例に関しては個々にカンファレンス機会を設置している。) 他の施設で行う教育・研修機会 (近隣総合病院でのカンファレンスや勉強会および地区医師会主催、県医師会主催の勉強会が近隣で開催されることも多い。)
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること
本プログラム以外の参加プログラム数 (なし) プログラム名 () プログラム名 () プログラム名 ()

研修施設名	竹富町立竹富診療所		
診療科名	(内科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	☒ 診療所 ☐ 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 () 床 診療科病床数 () 床		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	(6) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	☐ 配置あり ☒ 配置なし 常勤指導医なしの場合 ☒ 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	☒ なし ☐ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容 ☒ 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ☐ 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ☒ 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ☒ 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ) ☒ 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか () ☐ 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
☒ アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 (119 番を経て医師携帯電話への連絡)			
☒ 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略 ()			

別添 1 専門研修プログラムの概要と診療実績

☒ 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（ ワクチン接種等 ）			
☒ 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（ 基幹病院との連携 ）			
☒ 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（ ）			
☐ 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（ ）			
☐ 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している 具体的な内容と方法（ ）			
診療実績（各項目を満たすとき、 ☐ を塗りつぶす（ ☒ のように））			
☐ のべ外来患者数 400 名以上／月 ☒ 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（人口規模が少ない離島なので沖縄県立宮古病院と連携の上、工夫する。）			
☐ のべ訪問診療数 20 件以上／月 ☒ 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（人口規模が少ない離島なので沖縄県立宮古病院と連携の上、工夫する。）			
研修中に定期的に行う教育			
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （ 指導医としての臨床経験を伝承する。カルテ、レセプトチェックにも参加する ） 他の施設で行う教育・研修機会 （ 可能な限り学会やセミナー等への参加を促す ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 （ ） プログラム名（ ） プログラム名（ ） プログラム名（ ）			

研修施設名	竹富町立黒島診療所		
診療科名	（ 内科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	☒ 診療所 ☐ 病院 施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床 診療科病床数（ ）床		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6 ）カ月		
常勤の認定 の配置の有無	☐ 配置あり ☒ 配置なし 常勤指導医なしの場合 ☒ 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（ ）		
研修期間の分割	☒ なし ☐ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名 1		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、 ☐ を塗りつぶす（ ☒ のように））			
研修の内容 ☒ 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ☒ 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ☒ 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ☒ 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている			

学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） ■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている □学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する □学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか （ ） □学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 （ ） 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 （ ）	
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（119 番を経て電話で対応方針を決め実施）	
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（ ）	
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（ ）	
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（定期的なケア会議、臨時の関係者会議をもって対応 ）	
□家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（ ）	
□地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（ ）	
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している 具体的な内容と方法（月 1 回の訪問診療と臨時の往診 ）	
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
□のべ外来患者数 400 名以上／月 ■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（人口規模が少ない離島なので沖縄県立八重山病院と連携の上、工夫する。）	
□のべ訪問診療数 20 件以上／月 ■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（人口規模が少ない離島なので沖縄県立八重山病院と連携の上、工夫する。）	
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （ ） 他の施設で行う教育・研修機会 （ ）	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数 （ ） プログラム名 （ ） プログラム名 （ ） プログラム名 （ ）	

研修施設名	与那国町診療所
診療科名	（ 内科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。
施設情報	■診療所 □病院 施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床 診療科病床数（ ）床
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6 ）カ月
常勤の認定指導医の配置の有無	□配置あり ■配置なし 常勤指導医なしの場合 ■都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である

	その場合のサポート体制（ ）		
研修期間の分割	☒ なし ☐ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名 1		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容 ☒ 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ☒ 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ☒ 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ☒ 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） ☒ 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか （ ） ☐ 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 （ ） 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 （ ）			
☒ アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（ 119 番を経て医師携帯電話への連絡 ）			
☒ 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（ ）			
☒ 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（ ワクチン接種等 ）			
☒ 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（ 基幹病院との連携 ）			
☒ 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（ ）			
☐ 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（ ）			
☐ 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している 具体的な内容と方法（ ）			
診療実績（各項目を満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））			
☒ のべ外来患者数 400 名以上／月 ☐ 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
☐ のべ訪問診療数 20 件以上／月 ☒ 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
研修中に定期的に行う教育			
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （ ） 他の施設で行う教育・研修機会 （ ）			

他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数	()
プログラム名	()
プログラム名	()
プログラム名	()

研修施設名	公益社団法人地域医療振興協会 公立久米島病院		
診療科名	(総合診療科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	☐ 診療所 ☒ 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 (40) 床 診療科病床数 (40) 床		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	(6) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	☒ 配置あり ☐ 配置なし 常勤指導医なしの場合 ☐ 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	☒ なし ☐ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	並木 宏文	指導医登録番号	(2013-2722)
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容 ■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） ■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか () ☐ 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（当直体制により、24 時間 365 日救急・重症患者に対応できる体制をとっている）			
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（外来診療、入院治療、訪問診療から在宅看取りまで、継続的な関わりをするようにしている）			
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（慢性疾患の新患外来、定期外来を行い、救急当直で急性期疾患を経験する事ができる。訪問診療での緩和ケアも経験できる。役場福祉課と連携し、久米島健康プロジェクトも行っている）			
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（町内の全ての老健施設、グループホーム回診を行い、役場福祉課とも密に連携している）			
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する			

別添 1 専門研修プログラムの概要と診療実績

具体的な状況（島唯一の病院なので、親子で受診するなど多く、家族の繋がりがすぐに把握できる）			
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（健康運動プロジェクトを週一実施）			
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している 具体的な内容と方法（）			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■のべ外来患者数 400 名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（）			
■のべ訪問診療数 20 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（）			
研修中に定期的に行う教育			
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （） 他の施設で行う教育・研修機会 （）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（1） プログラム名（群星沖縄） プログラム名（） プログラム名（）			

研修施設名	伊江村立診療所		
診療科名	（総合診療科） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	☒ 診療所 ☐ 病院 施設が病院のとき → 病院病床数（）床 診療科病床数（）床		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（6）カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	☐ 配置あり ☒ 配置なし 常勤指導医なしの場合 ☒ 都道府県の実定するべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（）		
研修期間の分割	☒ なし ☐ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （）		
常勤指導医氏名 1		指導医登録番号	（）
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	（）
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	（）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容 ■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） ■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する			

別添 1 専門研修プログラムの概要と診療実績

☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか ()	
☐ 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()	
☒ アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（ 村（島）唯一の医療機関として 24 時間、365 日、診療を行っている ）	
☒ 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（ 通常診療として継続的な診療を行っている ）	
☒ 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（介護包括、ケアマネと共有して医療サービスを担っている ）	
☒ 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（介護包括、ケアマネと共有して医療サービスを担っている ）	
☒ 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（ 地域診療として様々な年齢層の患者を診療している ）	
☐ 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（ ）	
☒ 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している 具体的な内容と方法（ 毎週水曜日に老人ホーム及び在宅訪問診療を行っている ）	
診療実績（各項目を満たすとき、 ☐ を塗りつぶす（ ☒ のように））	
☒ のべ外来患者数 400 名以上／月 ☐ 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()	
☐ のべ訪問診療数 20 件以上／月 ☐ 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）	
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 () 他の施設で行う教育・研修機会 ()	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数 () プログラム名 () プログラム名 () プログラム名 ()	

研修施設名	沖縄県立北部病院附属伊是名診療所
診療科名	(総合診療科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。
施設情報	☒ 診療所 ☐ 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 () 床 診療科病床数 () 床
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	(6) カ月
常勤の認定指導医の配置の有無	☐ 配置あり ☒ 配置なし 常勤指導医なしの場合 ☒ 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制()

別添 1 専門研修プログラムの概要と診療実績

研修期間の分割	☒ なし ☐ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容 ■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） ■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている □学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する □学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか () □学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（ 医師・看護師が 24 時間オンコール ※消防を通した 119 体制 ()			
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（ ()			
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（ ()			
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（ 特養の嘱託医となっている ()			
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（ ()			
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（ ()			
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している 具体的な内容と方法（ ()			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■のべ外来患者数 400 名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()			
□のべ訪問診療数 20 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ()			
研修中に定期的に行う教育			
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 () 他の施設で行う教育・研修機会 ()			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			

別添 1 専門研修プログラムの概要と診療実績

本プログラム以外の参加プログラム数	()
プログラム名	()
プログラム名	()
プログラム名	()

研修施設名	沖縄県立北部病院附属伊平屋診療所		
診療科名	(総合診療科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	☒ 診療所 ☐ 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 () 床 診療科病床数 () 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	(6) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	☐ 配置あり ☒ 配置なし 常勤指導医なしの場合 ☒ 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制()		
研修期間の分割	☒ なし ☐ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容 ☒ 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ☒ 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ☒ 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ☒ 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） ☒ 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか () ☐ 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			

■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（ 消防司令センターを介した 119 体制）	
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（ ）	
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（ ）	
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（ 個別支援会議など ）	
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（ ）	
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（ 保健師と連携 ）	
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している 具体的な内容と方法（ ）	
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
□のべ外来患者数 400 名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）	
□のべ訪問診療数 20 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）	
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （ 日々の振り返りなど ） 他の施設で行う教育・研修機会 （ 高齢者施設での実習 ）	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数 （ ） プログラム名（ ） プログラム名（ ） プログラム名（ ）	

研修施設名	沖縄県立中部病院附属津堅診療所
診療科名	（ 総合診療科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。
施設情報	■診療所 □病院 施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床 診療科病床数（ ）床
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6 ）カ月
常勤の認定指導医の配置の有無	□配置あり ■配置なし 常勤指導医なしの場合 ■都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（ ）

別添 1 専門研修プログラムの概要と診療実績

研修期間の分割	☒ なし ☐ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容 ☒ 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ☒ 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ☒ 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ☒ 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） ☒ 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか () ☐ 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
☒ アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 ()			
☒ 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略 ()			
☒ 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略 ()			
☒ 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略 ()			
☒ 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況 ()			
☒ 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法 ()			
☒ 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している 具体的な内容と方法 ()			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
☐ のべ外来患者数 400 名以上／月 ☒ 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 (中部病院での研修も行っている)			
☐ のべ訪問診療数 20 件以上／月 ☒ 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 (中部病院と地域ケアと協力)			
研修中に定期的に行う教育			
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 (Zoom 面談) 他の施設で行う教育・研修機会 (Zoom 面談、Zoom 勉強会)			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			

本プログラム以外の参加プログラム数 ()
 プログラム名 (沖縄県立北部病院家庭医療専門研修プログラム)
 プログラム名 ()
 プログラム名 ()

研修施設名	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属久高診療所		
診療科名	(総合診療科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	☒ 診療所 ☐ 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 () 床 診療科病床数 () 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	(6) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	☐ 配置あり ☒ 配置なし 常勤指導医なしの場合 ☒ 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 (週に一回のインターネットの web 会議を介して振り返りを行う。また、月に一度の問題ケースのレポート提出およびその細かいチェック。加えて急患搬送例の振り返りを必ず行う。3 ヶ月に一回プライマリケアコース指導医の訪問も行う。)		
研修期間の分割	☒ なし ☐ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 ☐ を塗りつぶす (☒ のように))			
研修の内 ☒ 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ☒ 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ☒ 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ☒ 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ) ☒ 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか () ☐ 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
☒ アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 (離島診療所医師として勤務し、緊急時のオンコール体制を敷いている)			
☒ 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略 (通院患者の外来および新患者の全例診察、定期受診は予約を入れ継続的に関わる)			
☒ 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当			

別添 1 専門研修プログラムの概要と診療実績

具体的な体制と方略（離島の役場および保健師と協力し保健活動も行う。急性期・慢性期の外来診療と予防接種、訪問診療を行っている）	
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（離島における老健施設のコンサルトや臨時診察を行う、入院が必要な場合は近隣の沖縄県立病院への紹介を行う）	
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（離島診療所の総合診療科として、受診者すべての診療にあたる）	
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（離島の役場と保健師と一緒に健康相談の定期開催）	
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している 具体的な内容と方法（島の保健師や役場と協力し、緊急対応および離島での看取りも積極的に行う。急変は週に1回程度、緩和・看取りは年に1-2人）	
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
□のべ外来患者数 400 名以上／月 ■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 （週に1回、南部医療センターの救急外来もしくは内科外来で診療を担当し、実績を積んでもらう）	
□のべ訪問診療数 20 件以上／月 ■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（週に1回、南部医療センターの総合診療科で訪問診療に同行する事で実績を積んでもらう）	
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （週に一回のインターネットの web 会議を介して振り返りを行う。また、月に一度の問題ケースのレポート提出とその検討。加えて急患搬送例の振り返りを必ず行う） 他の施設で行う教育・研修機会 （ ）	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数 (1) プログラム名（沖縄県立中部病院 島医者養成プログラム） プログラム名（ ） プログラム名（ ）	

研修施設名	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属北大東診療所		
診療科名	（ 総合診療科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	■診療所 □病院 施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床 診療科病床数（ ）床		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6 ）カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	□配置あり ■配置なし 常勤指導医なしの場合 ■都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（週に一回のインターネットの web 会議を介して振り返りを行う。また、月に一度の問題ケースのレポート提出およびその細かいチェック。加えて急患搬送例の振り返りを必ず行う。3 ヶ月に一回プライマリケアコース指導医の訪問も行う。）		
研修期間の分割	■なし □あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名 1		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	（ ）

常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容 ■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） ■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている □学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する □学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか () □学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（離島診療所医師として勤務し、緊急時のオンコール体制を敷いている）			
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（通院患者の外来および新患者の全例診察、定期受診は予約を入れ継続的に関わる）			
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（離島の役場および保健師と協力し保健活動も行う。急性期・慢性期の外来診療と予防接種、訪問診療を行っている）			
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（離島における老健施設のコンサルトや臨時診察を行う、入院が必要な場合は近隣の沖縄県立病院への紹介を行う）			
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（離島診療所の総合診療科として、受診者すべての診療にあたる）			
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（離島の役場と保健師と一緒に健康相談の定期開催）			
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している 具体的な内容と方法（島の保健師や役場と協力し、緊急対応および離島での看取りも積極的に行う。急変は週に 1 回程度、緩和・看取りは年に 1-2 人）			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
□のべ外来患者数 400 名以上／月 ■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 （少なくとも年間 10 日の取得が保証されている研修期間中において、県立病院で外来中心の診療を行い、実績を重ねるべく自己研鑽に励んでいる。）			
■のべ訪問診療数 20 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()			
研修中に定期的に行う教育			
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （週に一回のインターネットの web 会議を介して振り返りを行う。また、月に一度の問題ケースのレポート提出とその検討。加えて急患搬送例の振り返りを必ず行う） 他の施設で行う教育・研修機会 ()			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			

本プログラム以外の参加プログラム数 (1)

プログラム名 (沖縄県立中部病院 島医者養成プログラム)

プログラム名 ()

プログラム名 ()

研修施設名	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属南大東診療所		
診療科名	(総合診療科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	☒ 診療所 ☐ 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 () 床 診療科病床数 () 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	(6) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	☐ 配置あり ☒ 配置なし 常勤指導医なしの場合 ☒ 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 (週に一回のインターネットの web 会議を介して振り返りを行う。また、月に一度の問題ケースのレポート提出およびその細かいチェック。加えて急患搬送例の振り返りを必ず行う。3 ヶ月に一回プライマリケアコース指導医の訪問も行う。)		
研修期間の分割	☒ なし ☐ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 ☐ を塗りつぶす (☒ のように))			
研修の内容 ☒ 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ☒ 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ☒ 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ☒ 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ) ☒ 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか () ☐ 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
☒ アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 (離島診療所医師として勤務し、緊急時のオンコール体制を敷いている)			
☒ 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略 (通院患者の外来および新患者の全例診察、定期受診は予約を入れ継続的に関わる)			
☒ 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略 (離島の役場および保健師と協力し保健活動も行う。急性期・慢性期の外来診療と予防接種、訪問診療を行っている)			
☒ 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する			

別添 1 専門研修プログラムの概要と診療実績

具体的な体制と方略（離島における老健施設のコンサルトや臨時診察を行う、入院が必要な場合は近隣の沖縄県立病院への紹介を行う）			
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（離島診療所の総合診療科として、受診者すべての診療にあたる）			
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（離島の役場と保健師と一緒に健康相談の定期開催）			
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している 具体的な内容と方法（島の保健師や役場と協力し、緊急対応および離島での看取りも積極的に行う。急変は週に1回程度、緩和・看取りは年に1-2人）			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■のべ外来患者数 400名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
■のべ訪問診療数 20件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
研修中に定期的に行う教育			
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （週に一回のインターネットのweb会議を介して振り返りを行う。また、月に一度の問題ケースのレポート提出とその検討。加えて急患搬送例の振り返りを必ず行う） 他の施設で行う教育・研修機会（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 (1) プログラム名（沖縄県立中部病院 島医者養成プログラム） プログラム名（ ） プログラム名（ ）			

研修施設名	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属粟国診療所		
診療科名	（ 総合診療科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	■診療所 □病院 施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床 診療科病床数（ ）床		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6 ）カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	□配置あり ■配置なし 常勤指導医なしの場合 ■都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（週に一回のインターネットのweb会議を介して振り返りを行う。また、月に一度の問題ケースのレポート提出およびその細かいチェック。加えて急患搬送例の振り返りを必ず行う。3ヶ月に一回プライマリケアコース指導医の訪問も行う。）		
研修期間の分割	■なし □あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名 1		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容 ■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど			

■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加	
施設要件 後期高齢者診療 ■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） ■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている □学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する □学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか （ ） □学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 （ ） 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 （ ）	
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（離島診療所医師として勤務し、緊急時のオンコール体制を敷いている）	
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（通院患者の外来および新患者の全例診察、定期受診は予約を入れ継続的に関わる）	
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（離島の役場および保健師と協力し保健活動も行う。急性期・慢性期の外来診療と予防接種、訪問診療を行っている）	
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（離島における老健施設のコンサルトや臨時診察を行う、入院が必要な場合は近隣の沖縄県立病院への紹介を行う）	
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（離島診療所の総合診療科として、受診者すべての診療にあたる）	
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容与方法（離島の役場と保健師と一緒に健康相談の定期開催）	
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している 具体的な内容与方法（島の保健師や役場と協力し、緊急対応および離島での看取りも積極的に行う。急変は週に 1 回程度、緩和・看取りは年に 1-2 人）	
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
□のべ外来患者数 400 名以上／月 ■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（少なくとも年間 10 日の取得が保証されている研修期間中において、県立病院で外来中心の診療を行い、実績を重ねるべく自己研鑽に励んでいる。）	
■のべ訪問診療数 20 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）	
研修中に定期的に行う教育 当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （週に一回のインターネットの web 会議を介して振り返りを行う。また、月に一度の問題ケースのレポート提出とその検討。加えて急患搬送例の振り返りを必ず行う） 他の施設で行う教育・研修機会 （ ）	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数 (1) プログラム名（沖縄県立中部病院 島医者養成プログラム） プログラム名（ ） プログラム名（ ）	

研修施設名	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属渡名喜診療所
診療科名	（ 総合診療科 ）

別添 1 専門研修プログラムの概要と診療実績

	※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	☒ 診療所 ☐ 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 () 床 診療科病床数 () 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	(6) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	☐ 配置あり ☒ 配置なし 常勤指導医なしの場合 ☒ 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 (週に一回のインターネットの web 会議を介して振り返りを行う。また、月に一度の問題ケースのレポート提出およびその細かいチェック。加えて急患搬送例の振り返りを必ず行う。3 ヶ月に一回プライマリケアコース指導医の訪問も行う。)		
研修期間の分割	☒ なし ☐ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 ☐ を塗りつぶす (☒ のように))			
研修の内容 ☒ 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ☒ 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ☒ 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ☒ 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ) ☒ 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか () ☐ 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
☒ アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 (離島診療所医師として勤務し、緊急時のオンコール体制を敷いている)			
☒ 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略 (通院患者の外来および新患者の全例診察、定期受診は予約を入れ継続的に関わる)			
☒ 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略 (離島の役場および保健師と協力し保健活動も行う。急性期・慢性期の外来診療と予防接種、訪問診療を行っている)			
☒ 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略 (離島における老健施設のコンサルトや臨時診察を行う、入院が必要な場合は近隣の沖縄県立病院への紹介を行う)			
☒ 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況 (離島診療所の総合診療科として、受診者すべての診療にあたる)			
☒ 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容与方法 (離島の役場と保健師と一緒に健康相談の定期開催)			
☒ 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している 具体的な内容与方法 (島の保健師や役場と協力し、緊急対応および離島での看取りも積極的に行う。急変は週に 1 回程度、緩和・看取りは年に 1-2 人)			

診療実績（各項目を満たすとき、 ☐ を塗りつぶす（■のように））	
☐ のべ外来患者数 400 名以上／月 ☒ 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（少なくとも年間 10 日の取得が保証されている研修期間中において、県立病院で外来中心の診療を行い、実績を重ねるべく自己研鑽に励んでいる。）	
☐ のべ訪問診療数 20 件以上／月 ☒ 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（少なくとも年間 10 日の取得が保証されている研修期間中において、県立病院で外来中心の診療を行いながら、総合診療科が提供している訪問診療に同行することで実績を積む）	
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （週に一回のインターネットの web 会議を介して振り返りを行う。また、月に一度の問題ケースのレポート提出とその検討。加えて急患搬送例の振り返りを必ず行う） 他の施設で行う教育・研修機会 （ ）	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数 (1) プログラム名（沖縄県立中部病院 島医者養成プログラム） プログラム名（ ） プログラム名（ ）	

研修施設名	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属座間味診療所		
診療科名	（ 総合診療科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	☒ 診療所 ☐ 病院 施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床 診療科病床数（ ）床		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6 ）カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	☐ 配置あり ☒ 配置なし 常勤指導医なしの場合 ☒ 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（週に一回のインターネットの web 会議を介して振り返りを行う。また、月に一度の問題ケースのレポート提出およびその細かいチェック。加えて急患搬送例の振り返りを必ず行う。3 ヶ月に一回プライマリケアコース指導医の訪問も行う。）		
研修期間の分割	☒ なし ☐ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名 1		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、 ☐ を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容 ☒ 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ☒ 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ☒ 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ☒ 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている			

学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） ■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている □学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する □学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか （ ） □学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 （ ） 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 （ ）	
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（離島診療所医師として勤務し、緊急時のオンコール体制を敷いている）	
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（通院患者の外来および新患者の全例診療、定期受診は予約を入れ継続的に関わる）	
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（離島の役場および保健師と協力し保健活動も行う。急性期・慢性期の外来診療と予防接種、訪問診療を行っている）	
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（離島における老健施設のコンサルトや臨時診療を行う、入院が必要な場合は近隣の沖縄県立病院への紹介を行う）	
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（離島診療所の総合診療科として、受診者すべての診療にあたる）	
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（離島の役場と保健師と一緒に健康相談の定期開催）	
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している 具体的な内容と方法（島の保健師や役場と協力し、緊急対応および離島での看取りも積極的に行う。急変は週に 1 回程度、緩和・看取りは年に 1-2 人）	
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
□のべ外来患者数 400 名以上／月 ■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（少なくとも年間 10 日の取得が保証されている研修期間中において、県立病院で外来中心の診療を行い、実績を重ねるべく自己研鑽に励んでいる。）	
■のべ訪問診療数 20 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）	
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （週に一回のインターネットの web 会議を介して振り返りを行う。また、月に一度の問題ケースのレポート提出とその検討。加えて急患搬送例の振り返りを必ず行う） 他の施設で行う教育・研修機会 （ ）	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数 (1) プログラム名（沖縄県立中部病院 島医者養成プログラム） プログラム名（ ） プログラム名（ ）	

研修施設名	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属渡嘉敷診療所
診療科名	（ 総合診療 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。
施設情報	■診療所 □病院 施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床 診療科病床数（ ）床
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6 ）カ月

別添 1 専門研修プログラムの概要と診療実績

常勤の認定指導医の配置の有無	☐ 配置あり ☒ 配置なし 常勤指導医なしの場合 ■都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（週に一回のインターネットの web 会議を介して振り返りを行う。また、月に一度の問題ケースのレポート提出およびその細かいチェック。加えて急患搬送例の振り返りを必ず行う。3 ヶ月に一回プライマリケアコース指導医の訪問も行う。）		
研修期間の分割	☒ なし ☐ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名 1		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、 ☐ を塗りつぶす（ ☒ のように））			
研修の内容 ■外来診療： 生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ■訪問診療： 在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア： 学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） ■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか （ ） ☐ 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 （ ） 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 （ ）			
■アクセスの担保： 24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（離島診療所医師として勤務し、緊急時のオンコール体制を敷いている）			
■継続的なケア： 一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（通院患者の外来および新患患者の全例診察、定期受診は予約を入れ継続的に関わる）			
■包括的なケア： 一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（離島の役場および保健師と協力し保健活動も行う。急性期・慢性期の外来診療と予防接種、訪問診療を行っている）			
■多様なサービスとの連携： 必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（離島における老健施設のコンサルトや臨時診察を行う、入院が必要な場合は近隣の沖縄県立病院への紹介を行う）			
■家族志向型ケア： 様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（離島診療所の総合診療科として、受診者すべての診療にあたる）			
■地域志向型ケア： 受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容与方法（離島の役場と保健師と一緒に健康相談の定期開催）			
■在宅医療： 訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している 具体的な内容与方法（島の保健師や役場と協力し、緊急対応および離島での看取りも積極的に行う。急変は週に 1 回程度、緩和・看取りは年に 1-2 人）			
診療実績（各項目を満たすとき、 ☐ を塗りつぶす（ ☒ のように））			
☐ のべ外来患者数 400 名以上／月 ■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			

具体的な体制と方略（少なくとも年間 10 日の取得が保証されている研修期間中において、県立病院で外来中心の診療を行い、実績を重ねるべく自己研鑽に励んでいる。）			
☒ のべ訪問診療数 20 件以上／月 ☐ 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
研修中に定期的に行う教育			
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （週に一回のインターネットの web 会議を介して振り返りを行う。また、月に一度の問題ケースのレポート提出とその検討。加えて急患搬送例の振り返りを必ず行う） 他の施設で行う教育・研修機会 （ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 （1） プログラム名（沖縄県立中部病院 島医者養成プログラム） プログラム名（ ） プログラム名（ ）			
研修施設名	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属阿嘉診療所		
診療科名	（ 総合診療科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	☒ 診療所 ☐ 病院 施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床 診療科病床数（ ）床		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6 ）カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	☐ 配置あり ☒ 配置なし 常勤指導医なしの場合 ☒ 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（週に一回のインターネットの web 会議を介して振り返りを行う。また、月に一度の問題ケースのレポート提出およびその細かいチェック。加えて急患搬送例の振り返りを必ず行う。3 ヶ月に一回プライマリケアコース指導医の訪問も行う。）		
研修期間の分割	☒ なし ☐ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名 1		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、 ☐ を塗りつぶす（ ☒ のように））			
研修の内容 ☒ 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ☒ 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ☒ 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ☒ 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） ☒ 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか			

() ☐ 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()	
■アクセスの担保： 24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（離島診療所医師として勤務し、緊急時のオンコール体制を敷いている）	
■継続的なケア： 一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（通院患者の外来および新患者の全例診察、定期受診は予約を入れ継続的に関わる）	
■包括的なケア： 一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（離島の役場および保健師と協力し保健活動も行う。急性期・慢性期の外来診療と予防接種、訪問診療を行っている）	
■多様なサービスとの連携： 必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（離島における老健施設のコンサルトや臨時診察を行う、入院が必要な場合は近隣の沖縄県立病院への紹介を行う）	
■家族志向型ケア： 様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（離島診療所の総合診療科として、受診者すべての診療にあたる）	
■地域志向型ケア： 受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（離島の役場と保健師と一緒に健康相談の定期開催）	
■在宅医療： 訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している 具体的な内容と方法（島の保健師や役場と協力し、緊急対応および離島での看取りも積極的に行う。急変は週に 1 回程度、緩和・看取りは年に 1-2 人）	
診療実績（各項目を満たすとき、 ☐ を塗りつぶす（ ■ のように））	
☐ のべ外来患者数 400 名以上／月 ■ 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（少なくとも年間 10 日の取得が保証されている研修期間中において、県立病院で外来中心の診療を行い、実績を重ねるべく自己研鑽に励んでいる。）	
■ のべ訪問診療数 20 件以上／月 ☐ 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）	
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （週に一回のインターネットの web 会議を介して振り返りを行う。また、月に一度の問題ケースのレポート提出とその検討。加えて急患搬送例の振り返りを必ず行う） 他の施設で行う教育・研修機会 （ ）	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数 (1) プログラム名（沖縄県立中部病院 島医者養成プログラム） プログラム名（ ） プログラム名（ ）	

研修施設名	沖縄県立八重山病院附属西表西部診療所
診療科名	(内科、小児科、外科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。
施設情報	■ 診療所 ☐ 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 () 床 診療科病床数 () 床
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	(6) カ月
常勤の認定指導医の配置の有無	☐ 配置あり ■ 配置なし 常勤指導医なしの場合 ☐ 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（八重山病院の指導医が WEB 面談や電話でサポー

	ト)		
研修期間の分割	☒ なし ☐ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件（各項目の全てを満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容 ■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） ■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている □学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する □学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか () □学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（ 24 時間対応の地域救急電話受付があり、必要によって診療所医師に転送される ）			
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（ 地域に他の医療機関がなく自動的に継続診療がなされる ）			
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（ 地域に他の医療機関がないので、上記対応が必用である ）			
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（ 主として石垣島の医療機関・介護施設ならびに、地域保健師・学校養護教諭などとの連携する ）			
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（ 地域に唯一の医療機関であり、全年齢に対しての対応をしている ）			
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（ 地域の健康講話など集団的アプローチを地域保健師との協力で実施する ）			
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している 具体的な内容と方法（ 地域に唯一の医療機関としての責務を果たしている ）			
診療実績（各項目を満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））			
■のべ外来患者数 400 名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()			
□のべ訪問診療数 20 件以上／月 ■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ 基幹病院で月 30 件の前後の訪問診療を行っているので、基幹病院における総合診療Ⅱ研修中に在宅医療研修も併せて行う ）			
研修中に定期的に行う教育			

当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （ WEB を利用した振り返りやカンファレンス、基幹施設での講演会の配信を行っている ） 他の施設で行う教育・研修機会 （ プライマリケア連合学会が主催あるいは共催している研修会への参加等 ）
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること
本プログラム以外の参加プログラム数 （ 2 ） プログラム名 （ 沖縄県立中部病院総合診療プログラム 島医者養成プログラム ） プログラム名 （ 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 総合診療後期研修プログラム ） プログラム名 （ ）

研修施設名	沖縄県立八重山病院附属波照間診療所		
診療科名	（内科、小児科、外科） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	☒ 診療所 ☐ 病院 施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床 診療科病床数（ ）床		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6 ）カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	☐ 配置あり ☒ 配置なし 常勤指導医なしの場合 ☐ 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（ 八重山病院の指導医が WEB 面談や電話でサポート ）		
研修期間の分割	☒ なし ☐ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名 1		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容 ☒ 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ☒ 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ☒ 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ☒ 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） ☒ 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか （ ） ☐ 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 （ ） 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 （ ）			
☒ アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（ 24 時間対応の地域救急電話受付があり、必要によって診療所医師に転送される ）			
☒ 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（ 地域に他の医療機関がなく自動的に継続診療がなされる ）			

■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（ 地域に他の医療機関がないので、上記対応が必用である ）
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（ 主として石垣島の医療機関・介護施設ならびに、地域保健師・学校養護教諭などとの連携する ）
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（ 地域に唯一の医療機関であり、全年齢に対する対応をしている ）
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（ 地域の健康講話など集団的アプローチを地域保健師との協力で実施する ）
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している 具体的な内容と方法（ 地域に唯一の医療機関としての責務を果たしている ）
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））
□のべ外来患者数 400 名以上／月 ■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ 人口が約 500 人であり、外来数には限界がある。基幹施設での外来経験で十分にカバーできると考える ）
□のべ訪問診療数 20 件以上／月 ■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ 基幹病院で月 30 件の前後の訪問診療を行っているので、基幹病院における総合診療Ⅱ研修中に在宅医療研修も併せて行う ）
研修中に定期的に行う教育
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （ WEB を利用した振り返りやカンファレンス、基幹施設での講演会の配信を行っている ） 他の施設で行う教育・研修機会 （ プライマリケア連合学会が主催あるいは共催している研修会への参加等 ）
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること
本プログラム以外の参加プログラム数 （ 2 ） プログラム名（ 沖縄県立中部病院総合診療プログラム 島医者養成プログラム ） プログラム名（ 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 総合診療後期研修プログラム ） プログラム名（ ）

研修施設名	沖縄県立八重山病院附属小浜診療所		
診療科名	（内科、小児科、外科） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	☒ 診療所 ☐ 病院 施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床 診療科病床数（ ）床		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6 ）カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	☐ 配置あり ☒ 配置なし 常勤指導医なしの場合 ☐ 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（ 八重山病院の指導医が WEB 面談や電話でサポート ）		
研修期間の分割	☒ なし ☐ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名 1		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容 ■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど			

■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加	
施設要件 後期高齢者診療 ■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） ■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている □学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する □学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか （ ） □学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 （ ） 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 （ ）	
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（ 24 時間対応の地域救急電話受付があり、必要によって診療所医師に転送される ）	
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（ 地域に他の医療機関がなく自動的に継続診療がなされる ）	
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（ 地域に他の医療機関がないので、上記対応が必用である ）	
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（ 主として石垣島の医療機関・介護施設ならびに、地域保健師・学校養護教諭などとの連携する ）	
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（ 地域に唯一の医療機関であり、全年齢に対する対応をしている ）	
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（ 地域の健康講話など集団的アプローチを地域保健師との協力で実施する ）	
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している 具体的な内容と方法（ 地域に唯一の医療機関としての責務を果たしている ）	
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
□のべ外来患者数 400 名以上／月 ■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ 人口が約 630 人であり、外来数には限界がある。基幹施設での外来経験で十分にカバーできると考える ）	
□のべ訪問診療数 20 件以上／月 ■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ 基幹病院で月 30 件の前後の訪問診療を行っているので、基幹病院における総合診療Ⅱ研修中に在宅医療研修も併せて行う ）	
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （ WEB を利用した振り返りやカンファレンス、基幹施設での講演会の配信を行っている ） 他の施設で行う教育・研修機会 （ プライマリケア連合学会が主催あるいは共催している研修会への参加等 ）	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数 （ 2 ） プログラム名（ 沖縄県立中部病院総合診療プログラム 島医者養成プログラム ） プログラム名（ 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 総合診療後期研修プログラム ） プログラム名（ ）	

研修施設名	沖縄県立八重山病院附属大原診療所
診療科名	（内科、小児科、外科 ）

別添 1 専門研修プログラムの概要と診療実績

	※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	☒ 診療所 ☐ 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 () 床 診療科病床数 () 床		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	(6) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	☐ 配置あり ☒ 配置なし 常勤指導医なしの場合 ☐ 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 (八重山病院の指導医が WEB 面談や電話でサポート)		
研修期間の分割	☒ なし ☐ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 ☐ を塗りつぶす (☒ のように))			
研修の内容 ☒ 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ☒ 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ☒ 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ☒ 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ) ☒ 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する ☐ 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか () ☐ 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
☒ アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 (24 時間対応の地域救急電話受付があり、必要によって診療所医師に転送される)			
☒ 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略 (地域に他の医療機関がなく自動的に継続診療がなされる)			
☒ 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略 (地域に他の医療機関がないので、上記対応が必用である)			
☒ 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略 (主として石垣島の医療機関・介護施設ならびに、地域保健師・学校養護教諭などとの連携する)			
☒ 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況 (地域に唯一の医療機関であり、全年齢に対する対応をしている)			
☒ 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容与方法 (地域の健康講話など集団的アプローチを地域保健師との協力で実施する)			
☒ 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している 具体的な内容与方法 (地域に唯一の医療機関としての責務を果たしている)			
診療実績 (各項目を満たすとき、 ☐ を塗りつぶす (☒ のように))			
☐ のべ外来患者数 400 名以上／月 ☒ 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 (西表東部地区の人口が約 1000 人であり、外来数には限界がある。基幹施設での外来経験で			

十分にカバーできると考える)
☐ のべ訪問診療数 20 件以上／月 ☒ 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 (基幹病院で月 30 件の前後の訪問診療を行っているので、基幹病院における総合診療Ⅱ研修中に在宅医療研修も併せて行う)
研修中に定期的に行う教育
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 (WEB を利用した振り返りやカンファレンス、基幹施設での講演会の配信を行っている) 他の施設で行う教育・研修機会 (プライマリケア連合学会が主催あるいは共催している研修会への参加等)
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること
本プログラム以外の参加プログラム数 (2) プログラム名 (沖縄県立中部病院総合診療プログラム 島医者養成プログラム) プログラム名 (沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 総合診療後期研修プログラム) プログラム名 ()

総合診療専門研修Ⅱ

総合診療専門研修Ⅱの施設一覧

都道府県 コード	医療機関 コード	へき地・離島、被災地 (該当する場合はチェック)	施設名	基幹施設・ 連携施設の別
47	8110192	☒ へき地・離島 ☐ 被災地	沖縄県立宮古病院	☒ 基幹 ☐ 連携
16	2010395	☒ へき地・離島 ☐ 被災地	南砺市民病院	☐ 基幹 ☒ 連携
47	0117153	☐ へき地・離島 ☐ 被災地	那覇市立病院	☐ 基幹 ☒ 連携
47	0412737	☐ へき地・離島 ☐ 被災地	中頭病院	☐ 基幹 ☒ 連携
01	0414315	☐ へき地・離島 ☐ 被災地	手稲溪仁会病院	☐ 基幹 ☒ 連携
27	1800397	☐ へき地・離島 ☐ 被災地	大阪けいさつ病院	☐ 基幹 ☒ 連携
27	1902102	☐ へき地・離島 ☐ 被災地	野崎徳洲会病院	☐ 基幹 ☒ 連携

総合診療専門研修Ⅱを行う施設ごとの詳細

研修施設名	沖縄県立宮古病院		
診療科名	(内科・小児・救急・外科・整形・産婦人科・精神科・リハビリテーション科など) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数 (277) 床 診療科病床数 (90) 床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(6) カ月		
常勤指導医の有無	☐ なし ☒ あり 常勤指導医なしの場合 ☐ 都道府県の定めるへき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	☐ なし ☒ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい (1 年目 6 ヶ月 2 年目 6 ヶ月)		
常勤指導医氏名 1	本永 英治	指導医登録番号	(00118)
常勤指導医氏名 2	新里 雅人	指導医登録番号	(2020-0-000)

常勤指導医氏名 3	砂川 惇司	指導医登録番号	(20030730)
常勤指導医氏名 4	山中 裕介	指導医登録番号	(20011240)
要件（各項目の全てを満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容 ■病棟診療： 病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 ■外来診療： 臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する			
施設要件 ■一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する ■救急医療を提供している			
病棟診療： 以下の全てを行っていること ■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（救急室や内科外来から入院してくる高齢2人暮らしやひとり暮らしの高齢者患者を、指導医のもとで主治医となり、介護、認知、ADL・IADLなど患者の背景にある生物心理社会性を理解し治療に介入する。受け持ち患者は10名を越えないように調整する。）			
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（主治医となった場合は毎朝の新患カフアンス、病棟カフアンスと病棟回診でプレセッションを行い、診断・治療に関する討論を行いマネジメントしていく上で重要な知識と技術を確認していく。また生物心理社会的・総合医的アプローチができるように多面的に情報を収集し、必要に応じて地域のケアマネや保健師、宮古島市福祉課担当など多職種連携による会議を開き問題解決を図る。また電子カルテの中にテンプレートを用意し適切な生物心理社会的患者情報の収集を行い、常に患者の立場にたった生物心理社会的アプローチになっているのか確認していく。）			
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（極めて難渋な多臓器にわたる合併症をもつ患者の主治医になり、内科臓器別専門医や精神科を含む他科専門医にコンサルテーションを通し診断・治療のアプローチを行う。必要があれば他科専門科に患者の主治医変更なども行い多面的に理解していく。）			
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（アルコール、パニック障害、長期入院患者、不安神経症、更年期障害、自律神経失調症、膠原病、神経難病、癌など複雑な背景を持つ対応困難症例に対し心理的アプローチ、行動変容アプローチやレジオン精神医療を通しマネジメントし、自己省察や指導医とのポートフォリオを通して理解を深めていく。）			
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（神経難病、末期腎不全、慢性疼痛患者、癌ターミナル患者などに対する包括的治療プログラムを体験する。難渋する患者はリハビリ、NST、感染症、褥瘡、精神科、緩和ケアなどのチーム医療での討論をしながら具体的に個別的にアプローチしていく。その中で在宅での緩和ケアを希望する場合には、当院家庭医療センター・地域診療科にて在宅調整を図り、当院訪問診療チームと地域の在宅訪問チームと連携し看取りも含めて患者の医療的サポートと家族のサポート体制を構築する。）			
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（入院時から生物心理社会的アプローチを通して患者背景を理解し、病棟看護師、地域連携室スタッフ、リハビリ担当療法士、栄養管理士などと連携し大凡の退院方向を位置づけ、早期に社会的福祉制度や介護保健サービスの利用など申請が必要なものは準備する。自宅退院、施設への転院などの方向が決定したら、当院地域連携室を中心に当院や地域の訪問診療医師や訪問看護ステーションスタッフ、ケアマネジャー、介護福祉施設あるいは介護保健施設の担当職員の交えた退院前カフアンスを行う退院調整を図る。）			
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（一般的に在宅患者の身体状況に変化が起きた場合には、当院家庭医療センター・地域診療科の訪問診療医師と地域の訪問診療医師あるいは訪問看護看護師等を通して当院地域連絡室に連絡してもらい、急を要する場合には当院救急科、精査中心であれば一般内科外来受診となる。救急室からの入院の場合には救急室内科入院担当医に連絡し入院となる。外来からの入院の場合には外来担当医師が主治医となる。平日午後5時以降の夜間、土曜日曜の休日、祝祭日は急変、精査の場合には当院救急室紹介となっている。また当院家庭医療センターは1年365日オンコール体制をしき、夜間・休日に備えて対応している。救急室は1年365日24時間全科オープンとなっている。台風接近など停電が考えられる場合には地域連携室を通し、優先的にレスピレーター、吸引器使用の患者、透析患者などを避難入院して貰っている。在宅人工呼吸器使用の患者の場合、介護の中心である家族に疲労が見られたり冠婚葬祭で出かける場合には、地域連携室を通しレスパイト入院を利用してもらっている。）			
外来診療： 以下の診療全てを行っていること ■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（週1回の救急室内科入院担当となる。1単位＜1単位とは午前8時30分～12時30分までと、午後0時30分～午後5時まで。各々1単位とみなす）を担当する。救急指導医あるいは指導医（入院担当医）と一緒に診療する。週1回の総合診療書院外来と週1回の継続フォロー外来を担当する。外来時間は9時～17時で、問題症例は常時総合診療専門指導医にコンサルトできるように総合診療外来に指導医を常時1名配置している。その体制の下で10名前後の新患の初診診療を担当する。）			
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（総合内科初診外来は臓器別外来ではないので上記にあげた初診外来は総合診療外来の意味を持っている。現在総合内科外来は4～5診で行っているが、大凡1～3診が専門外来（心臓、呼吸器、消化器、リウマ			

チ・膠原病)でそれ以外はすべて総合診療外来となっている。また総合診療外来には専門科の症状の訴えを持つ初診患者も受付している。この総合診療外来では、多くは高齢者であり、様々な主訴のあらゆる患者が来院している。未分化の状態にある初診外来患者の問題を同定し、高齢者に高齢者総合評価や生活機能評価を行い、高齢者特有の問題を挙げながら生物社会心理的な立場からアプローチし、診断・治療していくことが大切である。初診外来では、患者とのコミュニケーション、病歴と身体診察などの基本的診療スキルを習得し、診断推論と臨床問題解決（臨床判断）、医療連携、Up-to-dateの文献やEBMに基づく情報を指導医と共に得ながら学習し、医師としての倫理観・プロフェッショナルリズムを身につける。（ ）	
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（初診外来患者の主訴とバイタルサインから重要な病歴と身体所見をとり、緊急性、重症度、有病率などを判断・確認し鑑別疾患を行う。診断のための検査計画をし診断する過程を経験し、治療方針を決定する。以上、初診外来の評価の流れに沿って診療を進める。うぶらうさぎ総合診療専門研修プログラムにおける研修目標（Ⅱ．一般的な症候への適切な対応と問題解決）の項目が十分に経験され、さらに深く知識をつけているか定期的に確認していく。当院院内電子カルテシステムにはアイル・メーカーを通してその項目を専攻医や指導医にも確認できるように整備されている。そのシステムを利用しながら年に2回以上は達成度確認をしていく。	
■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（病歴を変換キーワードを利用し言語化・抽象化し電子カルテ記事入力できるようにする。病歴聴取と記事入力後に、代表的なVINDICATE+3Pなどの臨床推論法を利用し診断仮説へと進める。臨床推論には、パターン認識法、ERでよく用いられるRule-out worse-case scenario法、アルゴリズム法、枠組み誘導法、経験則に従った診断法（スナップ診断）、などがある。それらを症例ごとに個別に利用し診断仮説へ進み、次に診断仮説検証へと進む。オッズ比、尤度比、検査前確率、検査後確率、特異度、感度などの言語に慣れ親しみ、統計学手法などを用い、根拠に、基づく診断仮説を行う。治療の選択にあたっては各学会が推奨するUp-to-dateのガイドラインなどを参考にしながら、必要に応じてEBMを取り入れた文献検索を行い治療方針や安全の確認を行っていく。EBMに必要な「教科書」として、「UpToDate」「ACPJournal Club」「DynaMed」などを準備する。現在当院で準備されているのは病院が契約してある「UpToDate」であるが、その他の「ACPJournal Club」「DynaMed」など主要な英文ジャーナルはネットを通して入手可能である。総合診療カンファランスでもこれらの流れが機能しているのかどうか症例発表を通して確認する。（ ）	
■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（通常のアプローチでは上手くいかない症例や問題が複雑に絡み合っている症例など、今後の治療方針や予測がつかない症例には、de Jongeらにより開発された多次元評価尺度であるINTERMED日本語版を利用し2次元の軸で評価を行う。1次元には身体的（Biological）、心理的（Psychological）、社会的（Social）、医療とのかかわり（Health Care）の4つの項目を評価し、2次元には病歴（History）、現在の状態（Current State）、今後の見通し（Prognoses）を評価し、指導医と共に今後の方針を計画する。その際、指導医や総合診療科全員で症例を省察（振り返り）、問題症例患者の病（やまい）に対する考えなどの理解が十分なのか、患者中心のコミュニケーションは十分か、経済環境などの生活背景は安定しているのか、患者のケアに関わるチームの再編は、など多面的に患者・医者関係の在り方も検討する。BPSモデル、家族志向のケア、統合的ケア、地域包括ケア、行動変容のステージを理解しての介入なども試み、必要に応じEBM、NBMを個別に利用しながら、多職種協働で会議を繰り返し問題解決を図っていく。症例に応じてポートフォリオ評価をしていく。（ ）	
■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（ 当院は24科48名の医師が勤務しているので、診断的に難渋する場合には院内専門科への紹介・コンサルトをし治療計画をたてる。また毎日の入院カンファランスでも診断困難ケースを挙げて総合診療科、総合内科全員で討論していく。さらに専門性が必要な場合には専門病院（沖縄中部病院や琉球大学附属病院の専門科医師と連携しその解決にあたる。当院では最新ジャーナルなど文献検索も含めていつでも情報が入手できるように教育環境を整えてある。現在は当院の専門誌ジャーナルが入手可能のように医療情報部によりネット環境は整備されている。当院にはない専門ジャーナルは沖縄中部病院内・ハワイ大学から入手可能である。（ ）	
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
■当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）	
■当該診療科における入院患者総数 20件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）	
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 1. 毎朝の入院患者カンファランス 2. 毎日の病棟カンファランス：毎日専攻医の受け持つ入院患者の回診を行い、治療方針を細かく点検し教育的フィードバックを行う。 3. 新患外来、再診外来における指導：それぞれ週に1回ずつ担当し、指導医が常に相談できる体制をとり、当日にフィードバックを行う。ビデオレビューの導入、週1回のカルテチェックを予定。 4. 訪問診療の体験と指導：経験豊富な指導医と共に平日午後定期訪問をしている。また夜間および休日のオンコール担当をある。訪問診療活動を通して看取りのあり方、在宅における急性期の対応を経験し、指導医による1対1ポートフォリオ指導と自己省察を行う。	

5. リハビリ評価：リハビリ専門を持つ指導医による 1 対 1 教育は高齢者の診察においては特に重要なためリハビリ専門医の視点から外来・入院患者の身体診察評価を加え診療録に記載できるよう 1 対 1 で教育指導を行う。
6. 定期的な指導医による 1 対 1 ポートフォリオ指導と自己省察を兼ねた症例発表会：専攻医による発表会に参加する（自らの発表も含む）。月 1 回のペースで行い、水曜日に発表会を設ける。
7. 病理カンファランス（CPC）：年に 3～5 回開催する。専攻医の受け持ったケースの死因を深く考察し病態理解を深める。
8. MKSAP 勉強会：米国内科学会の編集した MKSAP（医学知識自己評価プログラム）問題集を 3～5 問毎朝指導医と専攻医とで解いていく。
9. 学会・セミナー参加：総合診療専門専攻医らには積極的に日本プライマリ・ケア学会をはじめ多くの総合診療専門に 関係する学会、研究会、生涯教育セミナーに参加できるようにする。
10. 外部講師による教育的症例検討会と教育的回診：年に 2～4 回開催する（例：感染症専門医による感染症症例の検討、総合内科専門医による臨床推論症例検討会と教育的回診）
11. 心肺蘇生のための各種講習会（ICLS、ISLS、BLS、PUSH、PCLS、PSLS、BLSO など）を開催し指導を行う。

他の施設で行う教育・研修機会

（日本プライマリ・ケア学会主催の春季・秋季セミナー、日本プライマリ・ケア学会医学会総会で開催されるワークショップに参加。沖縄シュミレーションセンターで開催されるプライマリケアに係る身体所見、診療・治療技術講習会に参加など）

他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること

本プログラム以外の参加プログラム数 （ 12 ）

プログラム名（沖縄県立中部病院 島医者養成プログラム）

プログラム名（沖縄県立南部医療センター・こども医療センター総合診療（プライマリ・ケア）科 専攻医研修プログラム）

プログラム名（沖縄県立北部病院 総合診療プログラム（後期研修医プログラム））

プログラム名（沖縄協同病院 総合診療専門研修プログラム）

プログラム名（国立病院機構栃木医療センター 総合診療プログラム）

プログラム名（多摩総合医療センター施設群 総合診療科東京アカデミー専門研修プログラム）

プログラム名（雲南市立病院 総合診療専門研修プログラム）

プログラム名（東京ほくと王子生協病院 総合診療研修プログラム）

プログラム名（東京家庭医療学開発センター 総合診療専門研修プログラム）

プログラム名（近畿家庭医療学開発センター 総合診療専門研修プログラム）

プログラム名（琉球大学医学部附属病院 総合診療専門研修プログラム）

プログラム名（聖母病院 総合診療専門研修プログラム）

研修施設名	南砺市民病院
診療科名	（内科・総合診療科など） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。
施設情報	病院病床数（ 175 ）床 診療科病床数（ 96 ）床
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	（ 3～6 ）カ月
常勤指導医の有無	☐ なし ☒ あり 常勤指導医なしの場合 ☐ 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（ ）

研修期間の分割	☐ なし ☒ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい (2 年目 6 ヶ月)		
常勤指導医氏名 1	大浦 誠	指導医登録番号	(16001040)
常勤指導医氏名 2	小川 大志	指導医登録番号	(19040050)
要件（各項目の全てを満たすとき、 ☐ を塗りつぶす（ ☒ のように））			
研修の内容 ■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 ■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する			
施設要件 ■一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する ■救急医療を提供している			
病棟診療 ：以下の全てを行っていること ■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（多くの入院患者を有している）			
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（高齢者が多い）			
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（富山大学附属病院・砺波総合病院と連携）			
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（倫理的な事を検討する院内カンファランスを定期的開催しており日常診療の中で多く経験する）			
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（終末期患者も多く入院、外来、在宅でかかえており日常診療の中で多く経験する）			
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（地域連携科の MSW が中心に、入院時より在宅復帰に向け、診療チームや家族、介護支援専門員等と共に患者の意向に沿った退院支援を行っている）			
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（24 時間 365 日対応している）			
外来診療 ■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（内科初診外来および救急当直で経験する）			
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（日常診療で経験できる）			
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（へき地医療支援病院、地域のプライマリ・ケア機能も担っており日常診療で経験できる）			
■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（個人指導やカンファレンスで学ぶ）			
■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（高齢者の受信者が多く日常診療で経験できる）			
■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（日常診療で経験できる）			
診療実績（各項目を満たすとき、 ☐ を塗りつぶす（ ☒ のように））			
■当該診療科におけるのべ外来患者数 200 名以上／月 年間外来患者数 5,778 人 年間総入院患者数 2,702 人 年間総外来患者数 67,554 人			
■当該診療科における入院患者総数 20 件以上／月			
研修中に定期的に行う教育			
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 1. 毎朝の入院患者カンファレンス 2. 毎日の病棟カンファレンス：毎日専攻医の受け持つ入院患者の回診を行い、治療方針を細かく点検し教育的フィードバックを行う。 3. 新患外来、再診外来における指導：それぞれ週に 1 回ずつ担当し、指導医が常に相談できる体制をとり、当日にフィードバックを行う。ビデオレビューの導入、週 1 回のカルテチェックを予定。 4. 訪問診療の体験と指導：経験豊富な指導医と共に平日午後に定期訪問をしている。訪問診療活動を通して看取りの			

あり方、在宅における急性期の対応を経験し、指導医と自己省察を行う。

5. 定期的な指導医による 1 対 1 ポートフォリオ指導と自己省察を兼ねた症例発表会：専攻医による発表会に参加する（自らの発表も含む）。

6. 学会・セミナー参加：総合診療専門専攻医らには積極的に日本プライマリ・ケア学会をはじめ多くの総合診療専門に
関係する学会、研究会、生涯教育セミナーに参加できるようにする。

7. 外部講師による教育的症例検討会と教育的回診：年に 2 ～ 4 回開催する（例：感染症専門医による感染症症例の検討、総合内科専門医による臨床推論症例検討会と教育的回診）

他の施設で行う教育・研修機会
（日本プライマリ・ケア学会主催の春季・秋季セミナー、日本プライマリ・ケア学会医学会総会で開催されるワークショップに参加。沖縄ジュニエーションセンターで開催されるプライマリケアに係る身体所見、診療・治療技術講習会に参加など）

他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること

研修施設名	社会医療法人敬愛会 中頭病院		
診療科名	（総合診療科Ⅱ、ICU など） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数（ 355 ）床 診療科病床数（ 15 ）床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	（ 3 - 6 ）カ月		
常勤指導医の有無	☐ なし ☒ あり 常勤指導医なしの場合 ☐ 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（ ）		
研修期間の分割	☒ なし ☐ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名 1	與那覇 忠博	指導医登録番号	(22202590)
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	
要件（各項目の全てを満たすとき、 ☐ を塗りつぶす（ ☒ のように））			
研修の内容 ☒ 病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 ☒ 外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する			
施設要件 ☒ 一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する ☒ 救急医療を提供している			
病棟診療 ：以下の全てを行っていること ☒ 高齢者（特に虚弱）ケア			
☒ 複数の健康問題を抱える患者への対応			
☒ 必要に応じた専門医との連携（ ）			

■心理・社会・倫理的複雑事例への対応	)
■癌・非癌患者の緩和ケア	
■退院支援と地域連携機能の提供	
■在宅患者の入院時対応	
外来診療：以下の診療全てを行っていること	
■救急外来及び初診外来	
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者	
■よくある症候と疾患	
■臨床推論・EBM	)
■複数の健康問題への包括的なケア	)
■診断困難患者への対応	
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
■当該診療科におけるのべ外来患者数 200 名以上／月	
■当該診療科における入院患者総数 20 件以上／月	)
研修中に定期的に行う教育	
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会	
1. 毎朝の入院患者カンファレンス	
2. 毎日の病棟カンファレンス：毎日専攻医の受け持つ入院患者の回診を行い、治療方針を細かく点検し教育的フィードバックを行う。	
3. 新患外来、再診外来における指導：それぞれ週に 1 回ずつ担当し、指導医が常に相談できる体制をとり、当日にフィードバックを行う。ビデオレビューの導入、週 1 回のカルテチェックを予定。	
4. 訪問診療の体験と指導：経験豊富な指導医と共に平日午後定期訪問をしている。訪問診療活動を通して看取りのあり方、在宅における急性期の対応を経験し、指導医と自己省察を行う。	
5. 定期的な指導医による 1 対 1 ポートフォリオ指導と自己省察を兼ねた症例発表会：専攻医による発表会に参加する（自らの発表も含む）。	
6. 学会・セミナー参加：総合診療専門専攻医らには積極的に日本プライマリ・ケア学会をはじめ多くの総合診療専門に 関係する学会、研究会、生涯教育セミナーに参加できるようにする。	
7. 外部講師による教育的症例検討会と教育的回診：年に 2 ～ 4 回開催する（例：感染症専門医による感染症症例の検討、総合内科専門医による臨床推論症例検討会と教育的回診）	
8. 病理間ファランス CPC：年に 10 回程度開催。	
9. ポートフォリオ作成支援：定期的な専攻医の症例発表会を月 1 回程度で開催し、ポートフォリオ作成を通して合衆を深める。	
他の施設で行う教育・研修機会 （日本プライマリ・ケア学会主催の春季・秋季セミナー、日本プライマリ・ケア学会医学会総会で開催されるワークショップに参加。沖縄シミュレーションセンターで開催されるプライマリケアに係る身体所見、診療・治療技術講習会に参加など）	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること	

研修施設名

那覇市立病院

別添 1 専門研修プログラムの概要と診療実績

診療科名	(総合診療科Ⅱ) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数 (470) 床 診療科病床数 (30) 床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(3-6) カ月		
常勤指導医の有無	☐ なし ☒ あり 常勤指導医なしの場合 ☐ 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	☒ なし ☐ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	湧川 朝雅	指導医登録番号	(20022370)
常勤指導医氏名 2	知花 なおみ	指導医登録番号	(22301370)
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	
要件 (各項目の全てを満たすとき、 ☐ を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容 ☒ 病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題 (心理・社会・倫理的問題を含む) を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 ☒ 外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する			
施設要件 ☒ 一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する ☒ 救急医療を提供している			
病棟診療 ：以下の全てを行っていること ☒ 高齢者 (特に虚弱) ケア			
☒ 複数の健康問題を抱える患者への対応			
☒ 必要に応じた専門医との連携 ()			
☒ 心理・社会・倫理的複雑事例への対応 ()			
☒ 癌・非癌患者の緩和ケア			
☒ 退院支援と地域連携機能の提供			
☒ 在宅患者の入院時対応			
外来診療 ：以下の診療全てを行っていること ☒ 救急外来及び初診外来			
☒ 臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者			
☒ よくある症候と疾患			
☒ 臨床推論・EBM ()			
☒ 複数の健康問題への包括的なケア ()			
☒ 診断困難患者への対応			
診療実績 (各項目を満たすとき、 ☐ を塗りつぶす (■のように))			

■当該診療科におけるのべ外来患者数 170 名以上／月
■当該診療科における入院患者総数 20 件以上／月
研修中に定期的に行う教育
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 1. 毎朝の入院患者カンファレンス 2. 毎日の病棟カンファレンス：毎日専攻医の受け持つ入院患者の回診を行い、治療方針を細かく点検し教育的フィードバックを行う。 3. 新患外来、再診外来における指導：それぞれ週に1回ずつ担当し、指導医が常に相談できる体制をとり、当日にフィードバックを行う。ビデオレビューの導入、週1回のカルテチェックを予定。 4. 訪問診療の体験と指導：経験豊富な指導医と共に平日午後に定期訪問をしている。訪問診療活動を通して看取りのあり方、在宅における急性期の対応を経験し、指導医と自己省察を行う。 5. 定期的な指導医による1対1ポートフォリオ指導と自己省察を兼ねた症例発表会：専攻医による発表会に参加する（自らの発表も含む）。 6. 学会・セミナー参加：総合診療専門専攻医らには積極的に日本プライマリ・ケア学会をはじめ多くの総合診療専門に 関係する学会、研究会、生涯教育セミナーに参加できるようにする。 7. 外部講師による教育的症例検討会と教育的回診：年に2～4回開催する（例：感染症専門医による感染症症例の検討、総合内科専門医による臨床推論症例検討会と教育的回診） 8. 病理間ファランス CPC：年に4回程度開催。 9. ポートフォリオ作成支援：定期的な専攻医の症例発表会を月1回程度で開催し、ポートフォリオ作成を通して合衆を深める。
他の施設で行う教育・研修機会 （日本プライマリ・ケア学会主催の春季・秋季セミナー、日本プライマリ・ケア学会医学会総会で開催されるワークショップに参加。沖縄シュミレーションセンターで開催されるプライマリケアに係る身体所見、診療・治療技術講習会に参加など）
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること

研修施設名	手稲溪仁会病院		
診療科名	(総合診療科Ⅰ、Ⅱ、総合内科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数(670)床 診療科病床数(30)床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(3-6)カ月		
常勤指導医の有無	☐ なし ☒ あり 常勤指導医なしの場合 ☐ 都道府県の定めるべき地(8. 研修施設群参照)の指定地域である その場合のサポート体制()		
研修期間の分割	☒ なし ☐ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	星哲也	指導医登録番号	(16006060)
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	

要件（各項目の全てを満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。			
■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する			
施設要件			
■一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する			
■救急医療を提供している			
病棟診療 ：以下の全てを行っていること			
■高齢者（特に虚弱）ケア			
■複数の健康問題を抱える患者への対応			
■必要に応じた専門医との連繋（ ）			
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応（ ）			
■癌・非癌患者の緩和ケア			
■退院支援と地域連携機能の提供			
■在宅患者の入院時対応			
外来診療 ：以下の診療全てを行っていること			
■救急外来及び初診外来			
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者			
■よくある症候と疾患			
■臨床推論・EBM（ ）			
■複数の健康問題への包括的なケア（ ）			
■診断困難患者への対応			
診療実績（各項目を満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ外来患者数 370 名以上／月			
■当該診療科における入院患者総数 20 件以上／月（ ）			
研修中に定期的に行う教育			
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会			
1. 毎朝の入院患者カンファレンス			
2. 毎日の病棟カンファレンス：毎日専攻医の受け持つ入院患者の回診を行い、治療方針を細かく点検し教育的フィードバックを行う。			
3. 新患外来、再診外来における指導：それぞれ週に1回ずつ担当し、指導医が常に相談できる体制をとり、当日にフィードバックを行う。ビデオレビューの導入、週1回のカルテチェックを予定。			
4. 患者のライフステージに合わせて外来から訪問診療へ移行し主治医としての継続診療。訪問診療活動を通して看取りのあり方、在宅における急性期の対応を経験し、指導医と自己省察を行う。			
5. 定期的な指導医による1対1ポートフォリオ指導と自己省察を兼ねた症例発表会：専攻医による発表会に参加する（自らの発表も含む）。			
6. 学会・セミナー参加：総合診療専門専攻医らには積極的に日本プライマリ・ケア学会をはじめ多くの総合診療専門に関係する学会、研究会、生涯教育セミナーに参加できるようにする。			
7. 米国家庭医療専門医やプライマリ・ケア指導医による教育的症例検討会と教育的回診：年に2～4回開催する（例：			

感染症専門医による感染症症例の検討、総合内科専門医による臨床推論症例検討会と教育的回診)

8. 病理間ファラリス CPC : 年に 4 回程度開催。

9. ポートフォリオ作成支援 : 定期的な専攻医の症例発表会を月 1 回程度で開催し、ポートフォリオ作成を通して合衆を深める。

10. 内科、小児科、産婦人科を標榜した都市型家庭医療クリニックでの研修

他の施設で行う教育・研修機会
(日本プライマリ・ケア学会主催の春季・秋季セミナー、日本プライマリ・ケア学会医学会総会で開催されるワークショップに参加。沖縄シュミレーションセンターで開催されるプライマリケアに係る身体所見、診療・治療技術講習会に参加など)

他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること

研修施設名	社会医療法人 大阪国際メディカル&サイエンスセンター 大阪けいさつ病院		
診療科名	(総合診療科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数 (650 床) 診療科病床数 () 床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(3-6 カ月) カ月		
常勤指導医の有無	☐ なし ☒ あり 常勤指導医なしの場合 ☐ 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	☒ なし ☐ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	水島 靖明	指導医登録番号	(23101920)
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 ☐ を塗りつぶす (☒ のように))			
研修の内容 ☒ 病棟診療 : 病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題 (心理・社会・倫理的問題を含む) を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 ☒ 外来診療 : 臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する			
施設要件 ☒ 一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する ☒ 救急医療を提供している			
病棟診療 : 以下の全てを行っていること ☒ 高齢者 (特に虚弱) ケア 具体的な体制と方略 (フレイルに対して N S T 介入、ロコモに対して早期にリハビリテーションの介入などを行う)			

■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（幅広い疾患への対応能力を高めるとともに、各専門医への適切なコンサルトを行う）
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（専門医への必要性があれば、常に連携をとれる体制である）
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（ソーシャルワーカーとの連携をとるとともに複雑なものは、多職種での倫理カンファレンスを行う）
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（緩和ケアチームの回診などに参加し、緩和ケアの実際を学ぶ）
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（退院支援と地域連携機能の提供院支援を学ぶとともに、地域連携室と連携して地域連携機能の提供を学ぶ）
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（かかりつけ医や担当のケアマネージャー等からの情報入手に努め、早い段階での患者理解を行う）
外来診療：以下の診療全てを行っていること
■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（ER 部門、救急部門の診療メンバーとして参加し、指導医と共に経験を積む）
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（ER か総合診療外来にて、緊急性などを鑑みて、診療を行う）
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（よくある症候や疾患に対して積極的に対応し、経験を積む）
■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（週 1 回の指導医の振り返りの機会カンファレンスを作るとともに、EBM などについても再確認する）
■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（自分が担当できる事についてはできるだけ対応し、必要に応じて専門医と連携する）
■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（指導医への相談とともに、カンファレンスにて議論を行う）
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））
■当該診療科におけるのべ外来患者数 200 名以上／月
■当該診療科における入院患者総数 20 件以上／月
研修中に定期的に行う教育
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 1. 毎朝の入院患者カンファレンス 2. 毎日の病棟カンファレンス：毎日専攻医の受け持つ入院患者の回診を行い、治療方針を細かく点検し教育的フィードバックを行う。 3. 新患外来、再診外来における指導：それぞれ週に 1 回ずつ担当し、指導医が常に相談できる体制をとり、当日にフィードバックを行う。ビデオレビューの導入、週 1 回のカルテチェックを予定。 4. 訪問診療の体験と指導：経験豊富な指導医と共に平日午後定期訪問をしている。訪問診療活動を通して看取りのあり方、在宅における急性期の対応を経験し、指導医と自己省察を行う。 5. 定期的な指導医による 1 対 1 ポートフォリオ指導と自己省察を兼ねた症例発表会：専攻医による発表会に参加する（自らの発表も含む）。 6. 学会・セミナー参加：総合診療専門専攻医らには積極的に日本プライマリ・ケア学会をはじめ多くの総合診療専門に関係する学会、研究会、生涯教育セミナーに参加できるようにする。 7. 外部講師による教育的症例検討会と教育的回診：年に 2～4 回開催する（例：感染症専門医による感染症症例の検討、総合内科専門医による臨床推論症例検討会と教育的回診） 8. 病理問ファランス CPC：年に 10 回程度開催。 9. ポートフォリオ作成支援：定期的な専攻医の症例発表会を月 1 回程度で開催し、ポートフォリオ作成を通して合衆を深める。 他の施設で行う教育・研修機会 （日本プライマリ・ケア学会主催の春季・秋季セミナー、日本プライマリ・ケア学会医学会総会で開催されるワークショップに参加。沖縄シュミレーションセンターで開催されるプライマリケアに係る身体所見、診療・治療技術講習会に参加など）
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること

別添 1 専門研修プログラムの概要と診療実績

研修施設名	医療法人徳洲会 野崎徳洲会病院		
診療科名	(内科・循環器内科・腎臓内科・人工透析・腎臓内科・外科・整形外科・救急科・集中治療など) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数 (218) 床 診療科病床数 (218) 床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(3-6) カ月		
常勤指導医の有無	☐ なし ☒ あり 常勤指導医なしの場合 (2) 都道府県の定めるへき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	☒ なし ☐ あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	北澤 孝三	指導医登録番号	23200480
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	
要件 (各項目の全てを満たすとき、 ☐ を塗りつぶす (☒ のように))			
研修の内容 ☒ 病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含む)を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 ☒ 外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する			
施設要件 ☒ 一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する ☒ 救急医療を提供している			
病棟診療 ：以下の全てを行っていること ☒ 高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（救急搬送あるいは一般外来より入院となった高齢者については、指導医のもとで主治医を決定し要介護状態、認知度、ADL など総合的に判断し治療に介入する。）			
☒ 複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（担当看護師・ケアマネージャー・入退院支援担当者など多職種からなる内科カンファレンスにてプレゼンテーションを実施。必要に応じて行政福祉事務所担当者の介入も行う。その際には、本人や家族への意思を尊重し慎重に進めなければならない。）			
☒ 必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（主たる病名以外の合併症・精神科領域については、他科コンサルを行う。専門的治療が必要と判断した場合には主治医を変更する。）			
☒ 心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（精神疾患・長期在院・難病及び癌など複雑な背景を持つ困難症例については、自己省察や担当指導医による助言を通じて理解を深める。）			
☒ 癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（末期疾患・がん終末期などの治療に難渋する患者に対しては、チーム医療での議論を重ねアプローチしていく。その中で、緩和ケアを希望された場合には担当職種による在宅調整を進める。看取りも含めた医療・患者家族への心理的サポートの構築を行う。）			
☒ 退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（入院時より情報収集し患者背景を理解する。病棟看護師、地域連携室担当、リハビリ療法士、管理栄養士、薬剤部による入院計画を定めたのち、退院後必要と判断されるサービスの提案および提供を入退院支援担当および地域連携室担当が中心となり退院調整進めていく。）			
☒ 在宅患者の入院時対応 具体的な体制と方略（平日 08：30 から 17：00 までは地域連携室を通じて紹介受診。また、一般外来へ紹介状持参し受診する場合もある。夜間・休日など時間外受診においては救急外来で対応。24 時間 365 日受け入れる体制である。）			
外来診療 ：以下の診療全てを行っていること ☒ 救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（救急指導医のもと救急外来に従事する。初診外来においても同様である。）			

■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（初診患者には専門的治療を要する患者が多数受付される。大東市・四条畷市における受診患者の多くは高齢者である。その中で、日常生活評価、身体的評価、社会的要因と様々な視点から診断・治療を進めなければならない。これには対話を通じて得る情報でもあることから臨床推論・問題解決以外にも基本的スキルの習得が極めて必要不可欠である。芯の主張を聞き取る能力を身に着けることで総合診療としての的確に診断および治療方針の精度が向上される。）
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（意識障害、疲労・全身倦怠感など多岐にわたる。大東市・四条畷市では高齢者が多く介護施設も盛んであることから、腰痛・呼吸困難・急性心不全・心肺停止状態などの救急搬送依頼が多い。また、地域医療圏外や他県からの救急搬送依頼も多く受け入れている。）
■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（経験目標を参考に野崎徳洲会病院で幅広い経験症例を確保します。外来診療に準じた教育方略となりますが、特に救急においては迅速な判断が求められるため救急特有の意思決定プロセスを重視します。また、救急処置全般については技能領域の教育方略（シミュレーションや直接観察指導等）が必要となり、特に、指導医と共に処置にあたる中から経験を積みます。）
■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（通常アプローチでは難渋する症例、治療方針に予測がつかない症例には、身体的、心理的、社会的、医療を再評価する必要がある。自己省察を指導医含め行い、また難渋症例患者にかかわる多職種チームを交えた問題解決を図っていく。）
■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（院内専門科へコンサルトし治療計画を立てる。その中で診断に難渋する症例については、総合内科医で討論。また、院内には文献検索も可能であり、様々な活用手法がある。）
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））
■当該診療科におけるのべ外来患者数 200 名以上／月
■当該診療科における入院患者総数 20 件以上／月
研修中に定期的に行う教育
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 1. 入院患者カンファレンス（内科医全員による） 2. 病棟患者カンファレンス（多職種交える） 3. 初診外来診療・救急（指導医への相談体制あり） 4. 症例報告（ポートフォリオ・自己省察） 5. CPC 症例報告（年 4 例以上） 6. 学会・セミナー参加
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること
本プログラム以外の参加プログラム数 （ ） プログラム名 （ ） プログラム名 （ ）

領域別研修：内科			
研修施設名	沖縄県立宮古病院	都道府県コード 47	医療機関コード 8110192
領域別研修（内科）における研修期間		（ 6 ）カ月	
指導医氏名	藍原和史		
有する認定医・専門医資格	総合内科専門医		
※内科に関するもの			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容 ■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する			
施設要件 ■内科専門研修プログラムに参加している □基幹施設 ■連携施設 ■特別連携施設 ■内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科における入院患者総数 40 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			

他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数 (9)	
プログラム名 (琉球大学医学部附属病院内科専門研修プログラム)	
プログラム名 (沖縄県立中部病院内科研修プログラム)	
プログラム名 (南部医療センター・こども医療センター内科研修プログラム)	
プログラム名 (中頭病院内科専門研修プログラム)	
プログラム名 (東京都立多摩総合医療センター内科専門研修プログラム)	
プログラム名 (那覇市立病院内科専門研修プログラム)	
プログラム名 (栃木医療センター内科専門研修プログラム)	
プログラム名 (ハートライフ病院内科専門研修プログラム)	
プログラム名 (友愛医療センター内科専門研修プログラム)	

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

領域別研修：小児科			
研修施設名	沖縄県立宮古病院	都道府県コード 47	医療機関コード 8110192
領域別研修（小児科）における研修期間		(3) カ月	
指導医氏名	武富博寿	有する専門医資格 (日本小児科学会認定医・専門医) ※小児科に関するもの	
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する			
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ			
施設要件			
■小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■小児科常勤医がいる。(5) 名			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ外来患者数 400 名以上／月			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略 ()			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 (2)			
プログラム名 (沖縄県立南部医療センター・こども医療センター（小児科専門研修）)			
プログラム名 (沖縄県立中部病院（小児科専門研修）)			
プログラム名 ()			

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

※小児科研修をカリキュラム制での実施を希望する場合は、その条件（2 ページ「4 概要 D. ローテーションのスケジュールと期間」参照）を確認したうえで、具体的にどのような研修を行うのか、別途説明した文書を添付してください。（A4で1枚程度、書式自由）文書には、プログラム制では実施できない合理的な理由と、プログラム制と同等の研修経験・指導の質を担保するための工夫に関する記載も含めるようにしてください。

領域別研修：救急科			
研修施設名	沖縄県立宮古病院	都道府県コード 47	医療機関コード 8110192
指導医氏名	小川太志	有する専門医資格 (救急専門医)	専従する部署（救急科）
■研修期間 (3) カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			

研修の内容			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
□救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関（救急搬送件数が年に 1000 件以上）			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ救急搬送件数 1000 件以上／年			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 （ 5 ）			
プログラム名（ 沖縄県立中部病院（救急科専門研修） ）			
プログラム名（ 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター（救急科専門研修） ）			
プログラム名（ 沖縄県琉球大学病院（救急専門研修） ）			
プログラム名（ 福岡大学病院（救急科専門研修） ）			
プログラム名（ 聖マリアナ医科大学（救急科専門研修） ）			

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー＆ペーストして記載すること

※救急科研修をカリキュラム制での実施を希望する場合は、その条件（2 ページ 「4 概要 D. ローテーションのスケジュールと期間」参照）を確認したうえで、具体的にどのような研修を行うのか、別途説明した文書を添付してください。（A4 で1枚程度、書式自由）文書には、プログラム制では実施できない合理的な理由と、プログラム制と同等の研修経験・指導の質を担保するための工夫に関する記載も含めるようにしてください。

その他の領域別診療科

領域別研修： 精神科			
研修施設名	沖縄県立宮古病院	都道府県コード 47	医療機関コード 8110192
指導医氏名	飯田淳史	有する専門医資格（ 日本精神神経学 会専門医 ）	専従する部署（精神科）
■研修期間 （ 2 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な common disease の診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（精神科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（精神科）科常勤医がいる。（ 4 ）名			

領域別研修： 産婦人科			
研修施設名	沖縄県立宮古病院	都道府県コード 47	医療機関コード 8110192
指導医氏名	石川裕子	有する専門医資格（ 日本産婦人科学 会専門医 ）	専従する部署（産婦人科）
■研修期間 （ 3 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な common disease の診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（産婦人科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（産婦人科）科常勤医がいる。（ 3 ）名			

領域別研修： 外科			
研修施設名	沖縄県立宮古病院	都道府県コード 47	医療機関コード 8110192
指導医氏名	西原政好	有する専門医資格（ 日本外科学会専 門医・指導医 ）	専従する部署（ 外科 ）

別添 1 専門研修プログラムの概要と診療実績

■研修期間 (2) カ月
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))
研修の内容 ■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な common disease の診療を経験する
施設要件 (下記のいずれかを満たす) ■ (外科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる ■ (外科) 科常勤医がいる。 (5) 名

領域別研修： 整形外科			
研修施設名	沖縄県立宮古病院	都道府県コード 47	医療機関コード 8110192
指導医氏名	池間正英	有する専門医資格 (日本整形外科学 会専門医)	専従する部署 (整形外科)
■研修期間 (2) カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容 ■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な common disease の診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす) ■ (整形外科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる ■ (整形外科) 科常勤医がいる。 (3) 名			

領域別研修： リハビリテーション科			
研修施設名	沖縄県立宮古病院	都道府県コード 47	医療機関コード 8110192
指導医氏名	本永英治	有する専門医資格 (日本リハビリテ ーション学会専門医・指導医)	専従する部署 (リハビリテー ション科)
■研修期間 (2) カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容 ■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な common disease の診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす) ■ (リハビリテーション科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる ■ (リハビリテーション科) 科常勤医がいる。 (1) 名			